



2026年度 第2四半期（4-9月） 決算説明会

コマツ出席者

代表取締役社長（兼）CEO

執行役員CFO

執行役員経営管理部長

今吉 琢也

細谷 浩志

菱沼 聖史

2026年10月29日（木）

目次

I. 2026年度 第2四半期（4-9月）決算の概要 <P3-P17>

P4-P5	: 2026年度 第2四半期（7-9月）の概要
P6-P8	: <建設機械・車両> 2026年度 第2四半期（7-9月）の状況
P9-P10	: 2026年度 上期（4-9月）の概要
P11-P14	: <建設機械・車両> 2026年度 上期（4-9月）の状況
P15	: <リテールファイナンス> 2026年度 上期（4-9月）の状況
P16	: <産業機械他> 2026年度 上期（4-9月）の状況
P17	: 連結貸借対照表とフリー・キャッシュ・フロー（FCF）

II. 2026年度の業績見通し <P18-P34>

P19-P20	: 2026年度の見通し
P21-P25	: <建設機械・車両> 2026年度の見通し
P26	: <リテールファイナンス> 2026年度の見通し
P27	: <産業機械他> 2026年度の見通し
P28-P32	: <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し（全体および地域別）
P33-P34	: <建設機械・車両> 鉱山機械の市場動向・需要推移の見通し

参考資料 <P35-P46>

P36-P40	: 四半期毎の状況
P41-P43	: <建設機械・車両> 一般建機・鉱山機械別の状況・見通し
P44	: Komtrax 月平均稼働時間推移
P45-P46	: BBレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕

I . 2026年度 第2四半期（4-9月）決算の概要

2026年度 第2四半期（7-9月）の概要

- ・売上高は、前年同期比+13.6%増収の1兆1,155億円。
- ・営業利益は、前年同期比▲1.2%減益の1,351億円。売上高営業利益率は、前年同期比▲1.8ポイント低下し12.1%。
- ・純利益は、前年同期比+13.3%増益の958億円。

金額単位：億円	2025年7-9月 ¥147.3/USD ¥171.3/EUR ¥96.0/AUD	2026年7-9月 ¥159.4/USD ¥183.7/EUR ¥112.2/AUD	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	9,821	11,155	+1,334	+13.6%
セグメント利益	1,377	1,360	▲ 16	▲1.2%
その他の営業収益（▲費用）	▲ 10	▲ 9	+0	-
営業利益	1,367	1,351	▲ 16	▲1.2%
売上高営業利益率	13.9%	12.1%	▲ 1.8ポイント	-
その他の収益（▲費用）	▲ 96	▲ 41	+55	-
税引前四半期純利益	1,271	1,310	+39	+3.1%
当社株主に帰属する四半期純利益	845	958	+113	+13.3%

2026年度 第2四半期（7-9月）の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比+15.1%増収の1兆326億円。セグメント利益は、前年同期比▲4.5%減益の1,143億円。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比+7.2%増収の327億円。セグメント利益は、前年同期比+3.0%増益の77億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比▲2.9%減収の616億円。セグメント利益は、前年同期比+28.4%増益の121億円。

金額単位：億円		2025年7-9月		2026年7-9月		前年同期比			
						増減		増減率	
売上高		9,821		11,155		+1,334		+13.6%	
	建設機械・車両	(8,950)	8,973	(10,288)	10,326	(+1,338)	+1,353	(+14.9%)	+15.1%
	リテールファイナンス	(242)	305	(259)	327	(+17)	+22	(+7.2%)	+7.2%
	産業機械他	(629)	635	(608)	616	(▲21)	▲19	(▲3.3%)	▲2.9%
	消去	▲92		▲115		▲22		-	
セグメント利益		14.0%	1,377	12.2%	1,360	▲1.8ポイント	▲16	▲1.2%	
	建設機械・車両	13.3%	1,197	11.1%	1,143	▲2.2ポイント	▲54	▲4.5%	
	リテールファイナンス	24.6%	75	23.7%	77	▲0.9ポイント	+2	+3.0%	
	産業機械他	14.8%	94	19.6%	121	+4.8ポイント	+27	+28.4%	
	消去または全社	10		19		+8		-	

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

売上は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響により増収。

利益は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響があったものの、コスト増などのマイナス影響により減益。

■ リテールファイナンス

売上・利益は、主に円安の影響により増収増益。

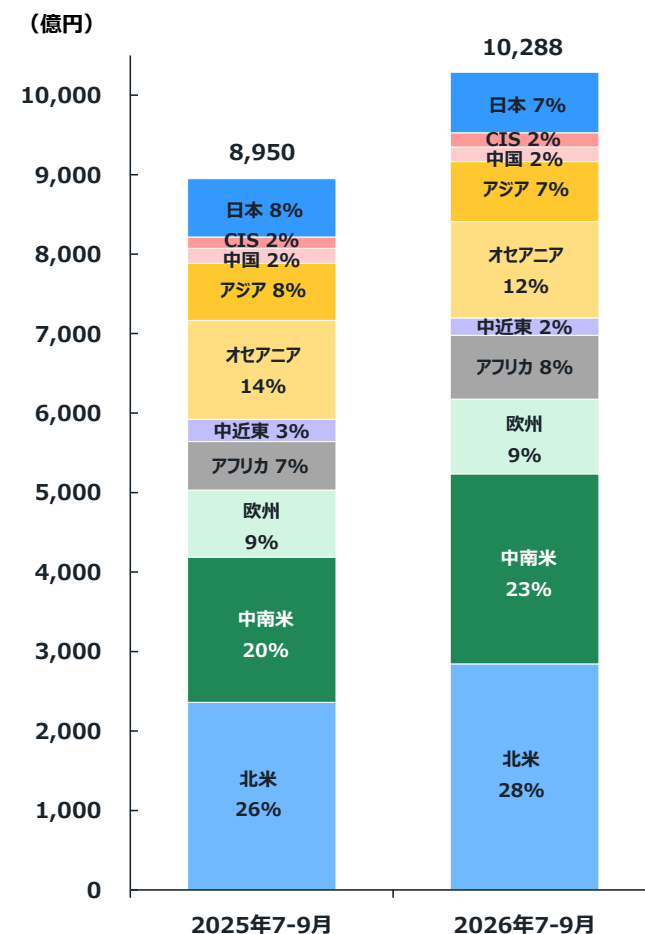
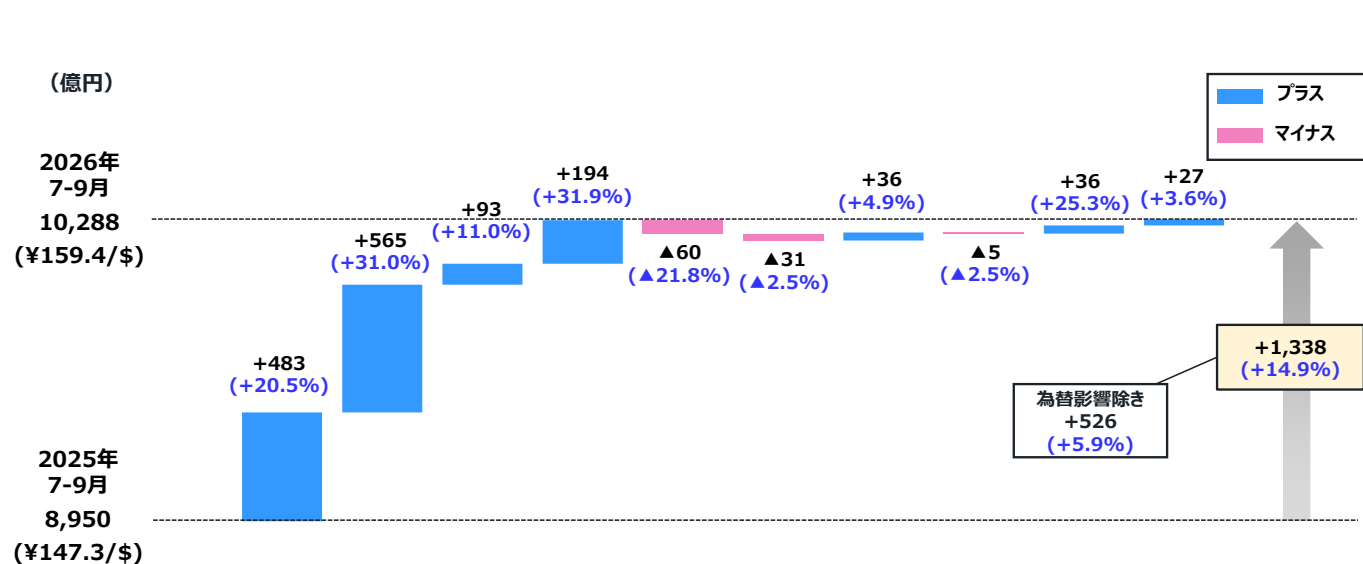
■ 産業機械他

売上は、自動車産業向けの販売減少により減収。利益は、利益率の高い半導体産業向けメンテナンス売上の増加などにより増益。

% : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

<建設機械・車両> 2026年度 第2四半期（7-9月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年同期比+14.9%増収の1兆288億円。為替影響を除くと、前年同期比+5.9%の増収。
- ・中近東、オセアニアなどで減収となったものの、中南米、北米、アフリカなどで増収。

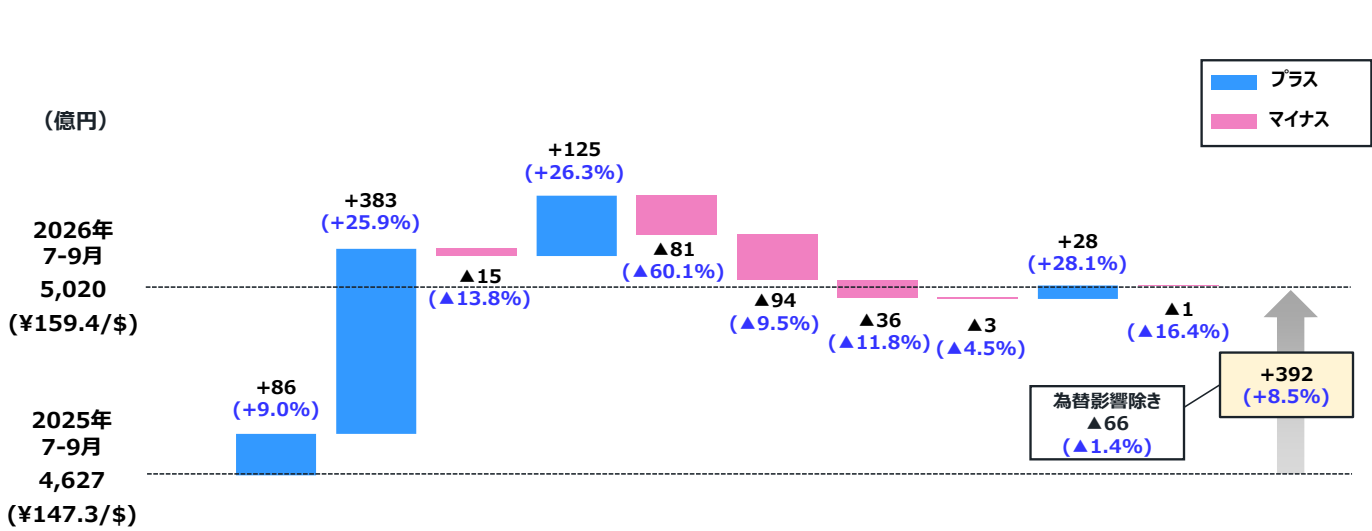


(億円)	米州		欧州	アフリカ	中近東	オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年 7-9月	2,361	1,826 ※	846	610 ※	278	1,245	720	188	143	734	8,950
2026年 7-9月	2,845	2,391	938	804	218	1,214	756	183	179	760	10,288
増減	+483	+565	+93	+194	▲ 60	▲ 31	+36	▲ 5	+36	+27	+1,338
増減 (為替影響除き)	+266	+383	+29	+109	▲ 77	▲ 195	▲ 5	▲ 26	+16	+27	+526

※”中近東”に含まれていた一部地域をFY26より”欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

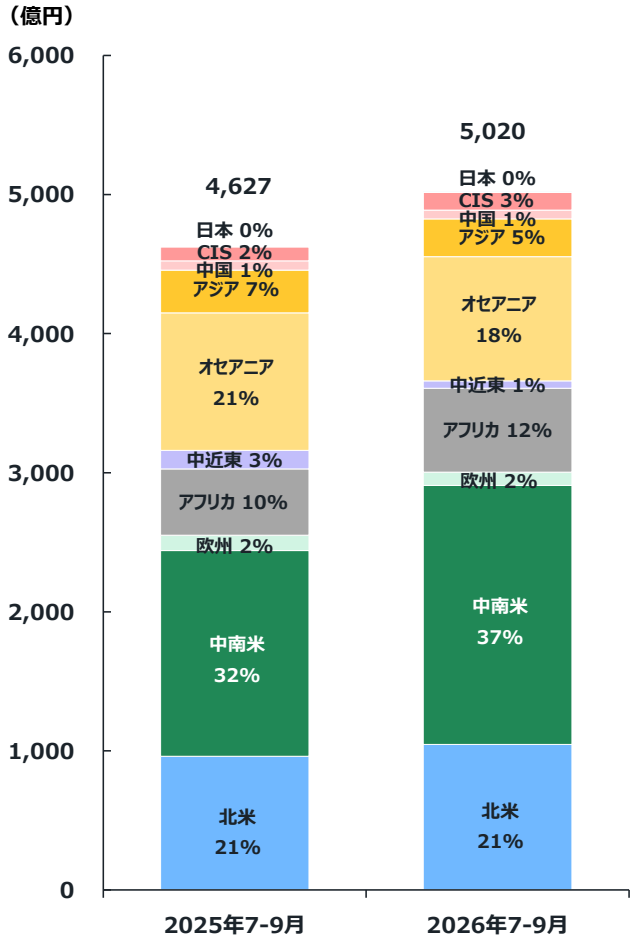
<建設機械・車両>（鉱山機械） 2026年度 第2四半期（7-9月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年同期比+8.5%増収の5,020億円。為替影響を除くと、前年同期比▲1.4%の減収。
- ・中南米、アフリカなどで増収となったものの、オセアニア、中近東、アジアなどで減収。



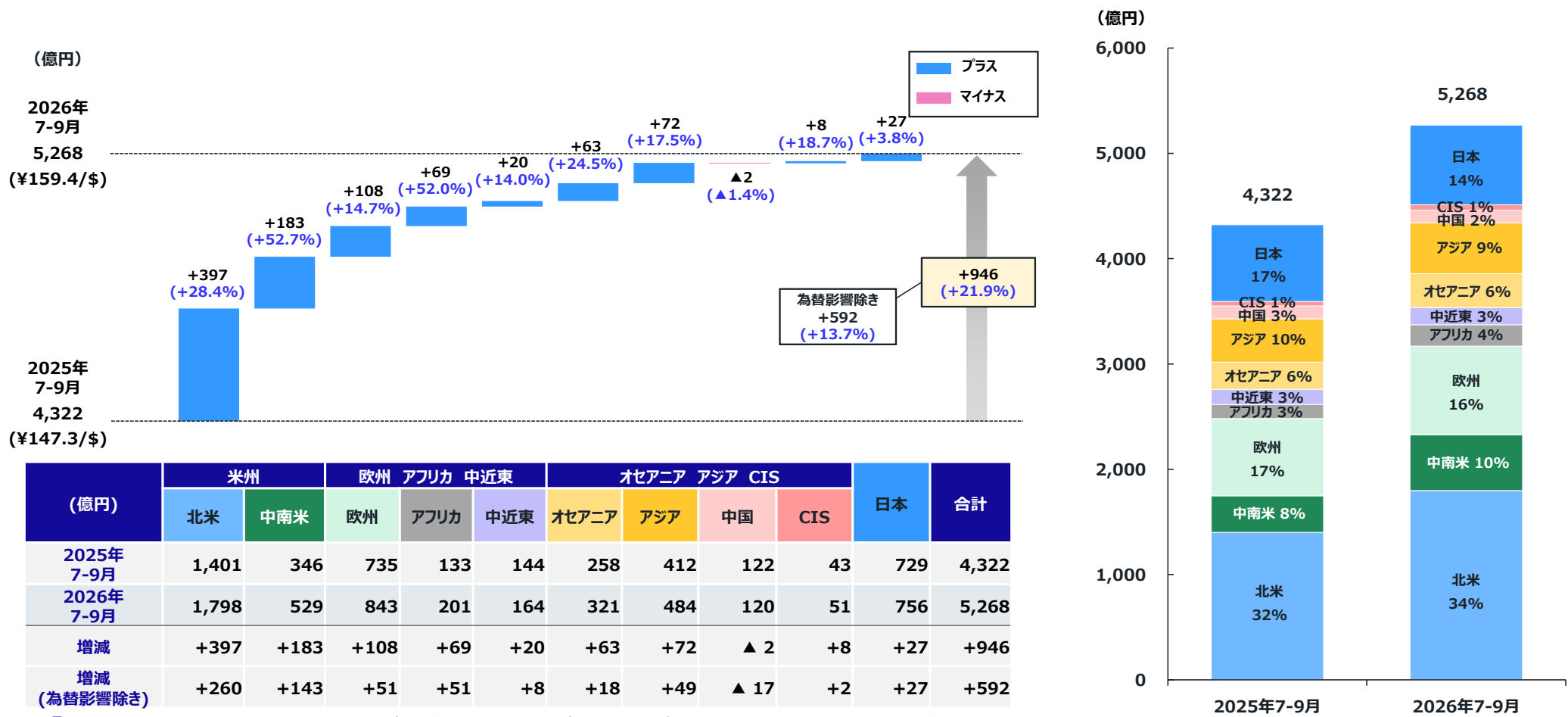
(億円)	米州		欧州	アフリカ	中近東	オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS	日本	
2025年 7-9月	960	1,480	※ 111	477	※ 134	987	308	66	100	5	4,627
2026年 7-9月	1,046	1,862	95	602	54	893	272	63	128	4	5,020
増減	+86	+383	▲ 15	+125	▲ 81	▲ 94	▲ 36	▲ 3	+28	▲ 1	+392
増減 (為替影響除き)	+6	+240	▲ 22	+58	▲ 85	▲ 213	▲ 55	▲ 9	+14	▲ 1	▲ 66

※”中近東”に含まれていた一部地域をFY26より”欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。



<建設機械・車両>（一般建機） 2026年度 第2四半期（7-9月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年同期比+21.9%増収の5,268億円。為替影響を除くと、前年同期比+13.7%の増収。
- ・北米、中南米など、中国を除く全ての地域で増収となった。



※”中近東”に含まれていた一部地域をFY26より”欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。



2026年度 上期（4-9月）の概要

- ・売上高は、前年同期比+14.1%増収の2兆1,586億円。
- ・営業利益は、前年同期比+3.5%増益の2,866億円。売上高営業利益率は、前年同期比▲1.3ポイント低下し13.3%。
- ・純利益は、前年同期比+9.2%増益の1,919億円。

金額単位：億円	2025年/ 上期 ¥146.4/USD ¥166.9/EUR ¥94.3/AUD	2026年/ 上期 ¥159.0/USD ¥184.2/EUR ¥112.4/AUD	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	18,916	21,586	+2,671	+14.1%
セグメント利益	2,777	2,868	+92	+3.3%
その他の営業収益（▲費用）	▲ 6	▲ 2	+4	-
営業利益	2,771	2,866	+96	+3.5%
売上高営業利益率	14.6%	13.3%	▲ 1.3ポイント	-
その他の収益（▲費用）	▲ 187	▲ 156	+31	-
税引前中間純利益	2,584	2,710	+127	+4.9%
当社株主に帰属する中間純利益	1,757	1,919	+162	+9.2%

2026年度 上期（4-9月）の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比+14.8%増収の1兆9,996億円。セグメント利益は、前年同期比+1.0%増益の2,445億円。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比+7.3%増収の654億円。セグメント利益は、前年同期比+2.9%増益の174億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比+7.1%増収の1,145億円。セグメント利益は、前年同期比+27.0%増益の211億円。

金額単位：億円		2025年/上期		2026年/上期		前年同期比	
						増減	増減率
売上高		18,916		21,586		+2,671	+14.1%
	建設機械・車両	(17,372)	17,422	(19,938)	19,996	(+2,566)	+2,574 (+14.8%) +14.8%
	リテールファイナンス	(484)	610	(517)	654	(+33)	+44 (+6.9%) +7.3%
	産業機械他	(1,060)	1,069	(1,132)	1,145	(+72)	+76 (+6.8%) +7.1%
	消去	▲ 185		▲ 209		▲ 23	
セグメント利益		14.7%	2,777	13.3%	2,868	▲1.4ポイント	+92 +3.3%
	建設機械・車両	13.9%	2,420	12.2%	2,445	▲1.7ポイント	+25 +1.0%
	リテールファイナンス	27.7%	169	26.5%	174	▲1.2ポイント	+5 +2.9%
	産業機械他	15.5%	166	18.4%	211	+2.9ポイント	+45 +27.0%
	消去または全社	22		39		+17	

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

売上は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響により増収。
利益は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響が、コスト増などのマイナス影響を上回り増益。

■ リテールファイナンス

売上・利益は、主に円安の影響および資産の拡大により増収増益。

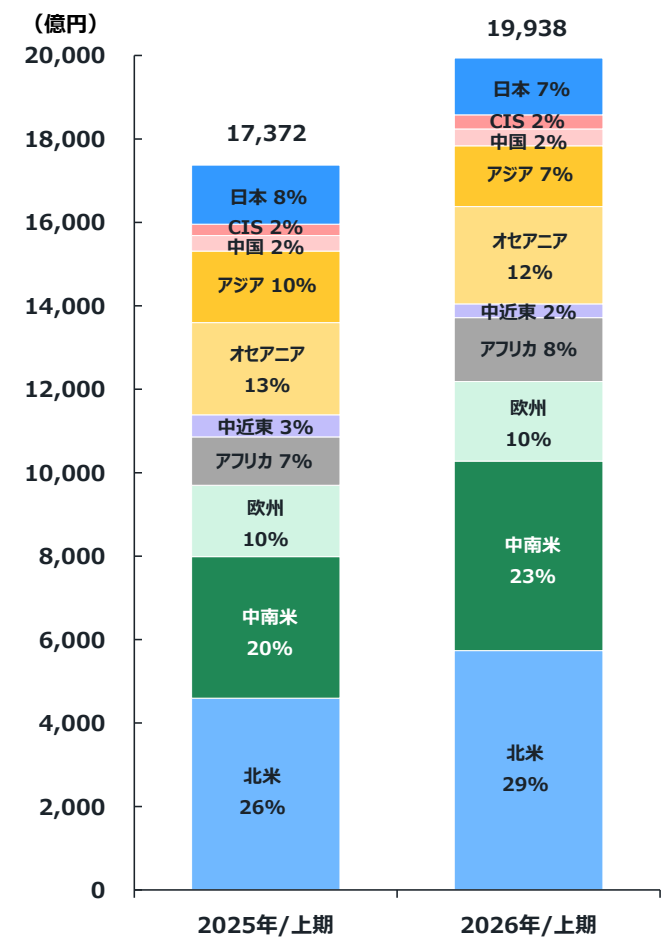
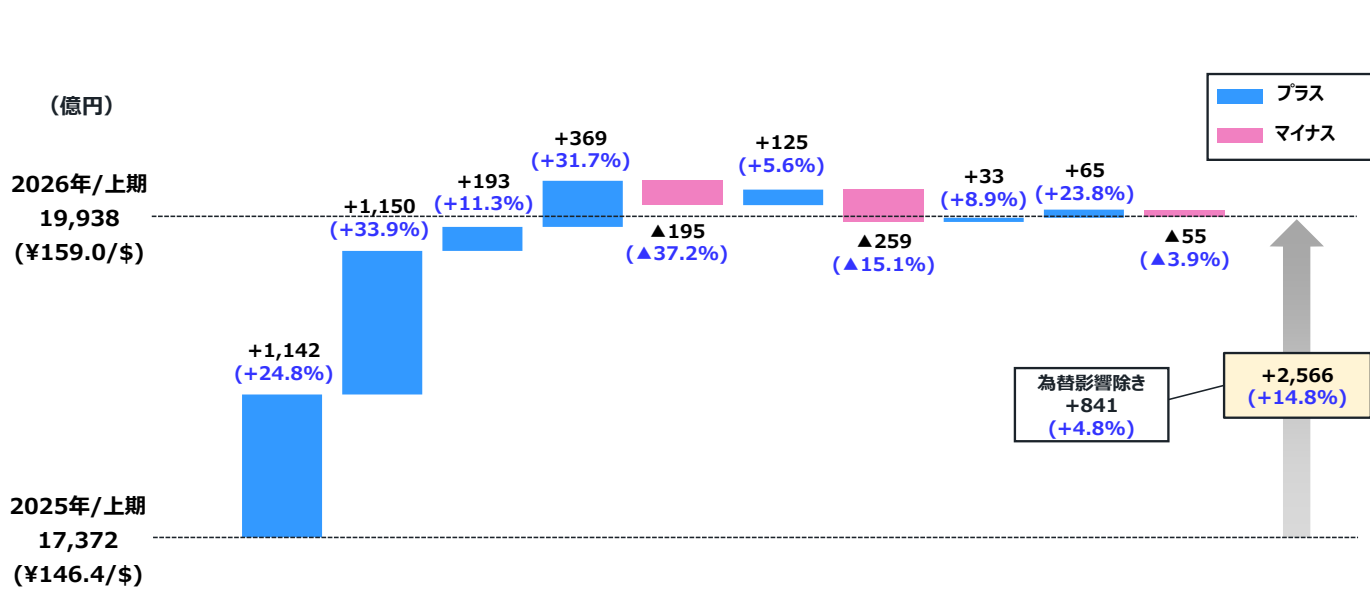
■ 産業機械他

自動車産業向けは減収、半導体産業向けは増収。全体としては増収増益。

% : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

<建設機械・車両> 2026年度 上期（4-9月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年同期比+14.8%増収の1兆9,938億円。為替影響を除くと、前年同期比+4.8%の増収。
- ・アジア、中近東などで減収となったものの、中南米、北米、アフリカなどで増収。

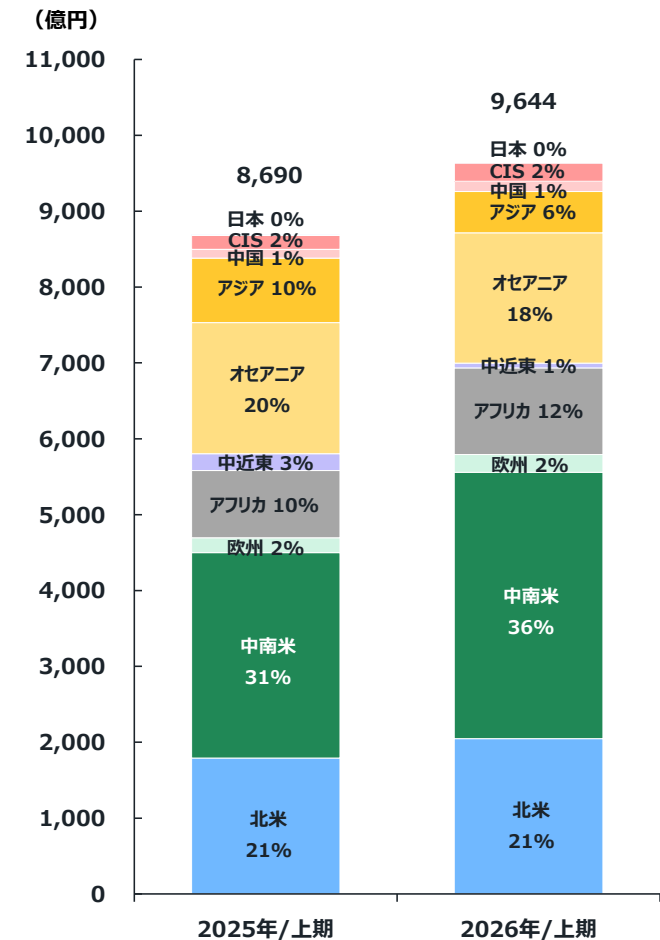
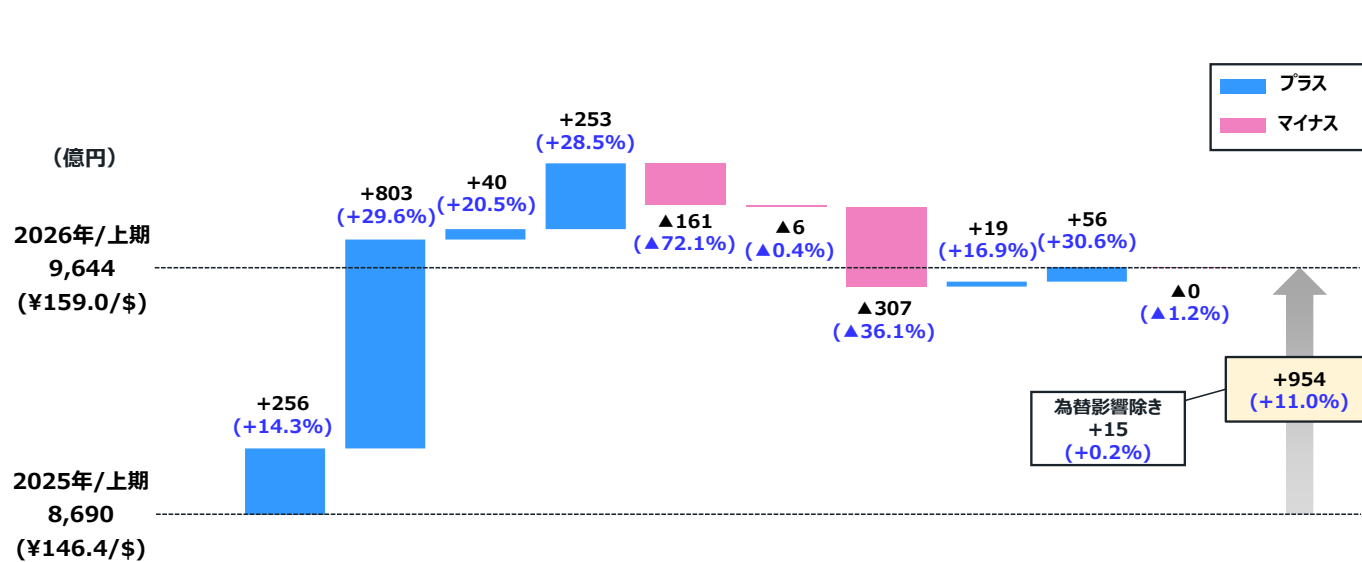


(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年/上期	4,595	3,396	※ 1,710	1,161	※ 525	2,210	1,715	370	274	1,416	17,372
2026年/上期	5,737	4,545	1,902	1,530	330	2,335	1,456	403	340	1,361	19,938
増減	+1,142	+1,150	+193	+369	▲ 195	+125	▲ 259	+33	+65	▲ 55	+2,566
増減 (為替影響除き)	+686	+787	+18	+187	▲ 221	▲ 228	▲ 341	▲ 16	+24	▲ 56	+841

※”中近東”に含まれていた一部地域をFY26より”欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

<建設機械・車両>（鉱山機械）2026年度 上期（4-9月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年同期比+11.0%増収の9,644億円。為替影響を除くと、前年同期比+0.2%の増収。
- ・アジア、中近東などで減収となったものの、中南米、北米、アフリカなどで増収。

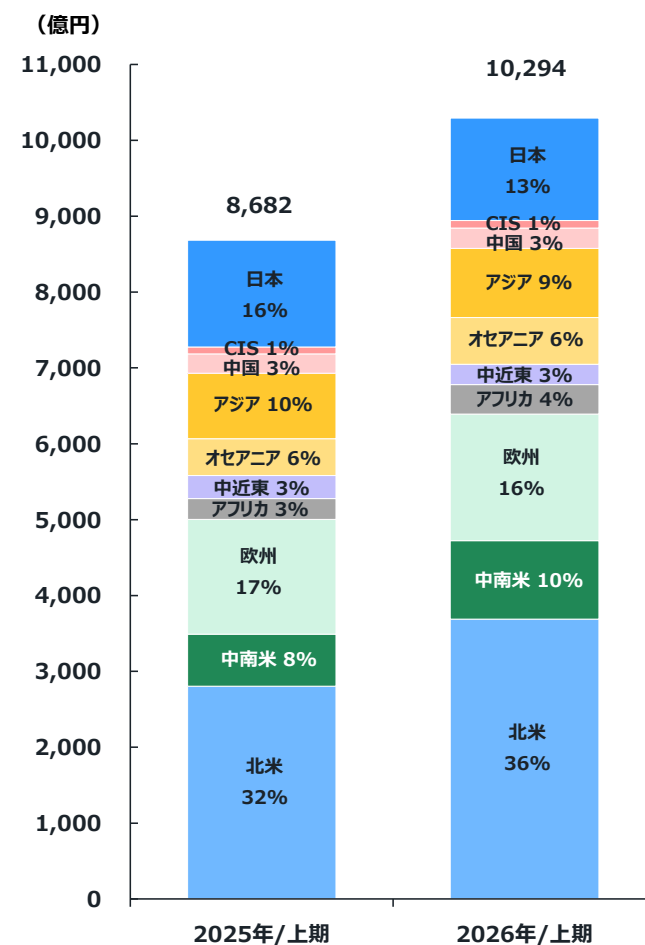
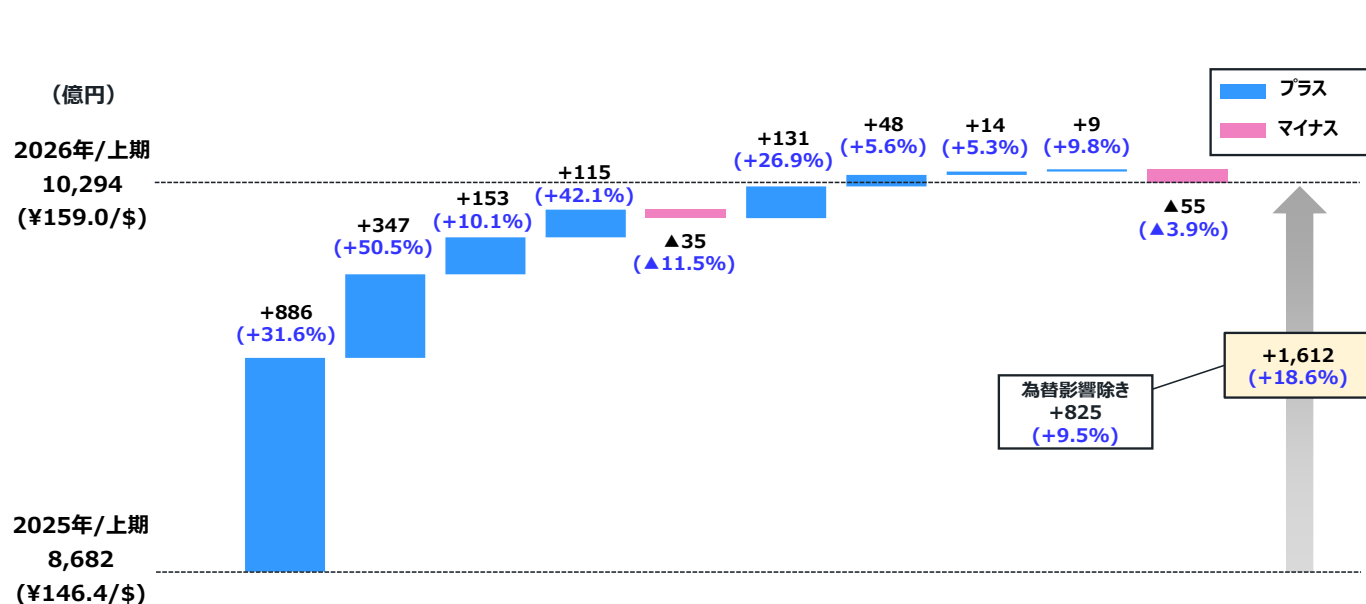


(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年/上期	1,791	2,709 ※	195	887 ※	223	1,725	852	115	184	9	8,690
2026年/上期	2,047	3,512	235	1,140	62	1,719	545	135	241	8	9,644
増減	+256	+803	+40	+253	▲161	▲6	▲307	+19	+56	▲0	+954
増減 (為替影響除き)	+91	+525	+19	+115	▲166	▲262	▲342	+6	+29	▲0	+15

※“中近東”に含まれていた一部地域をFY26より“欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

＜建設機械・車両＞（一般建機）2026年度 上期（4-9月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年同期比+18.6%増収の1兆294億円。為替影響を除くと、前年同期比+9.5%の増収。
- ・北米、中南米など、日本および中近東を除く全ての地域で増収となった。

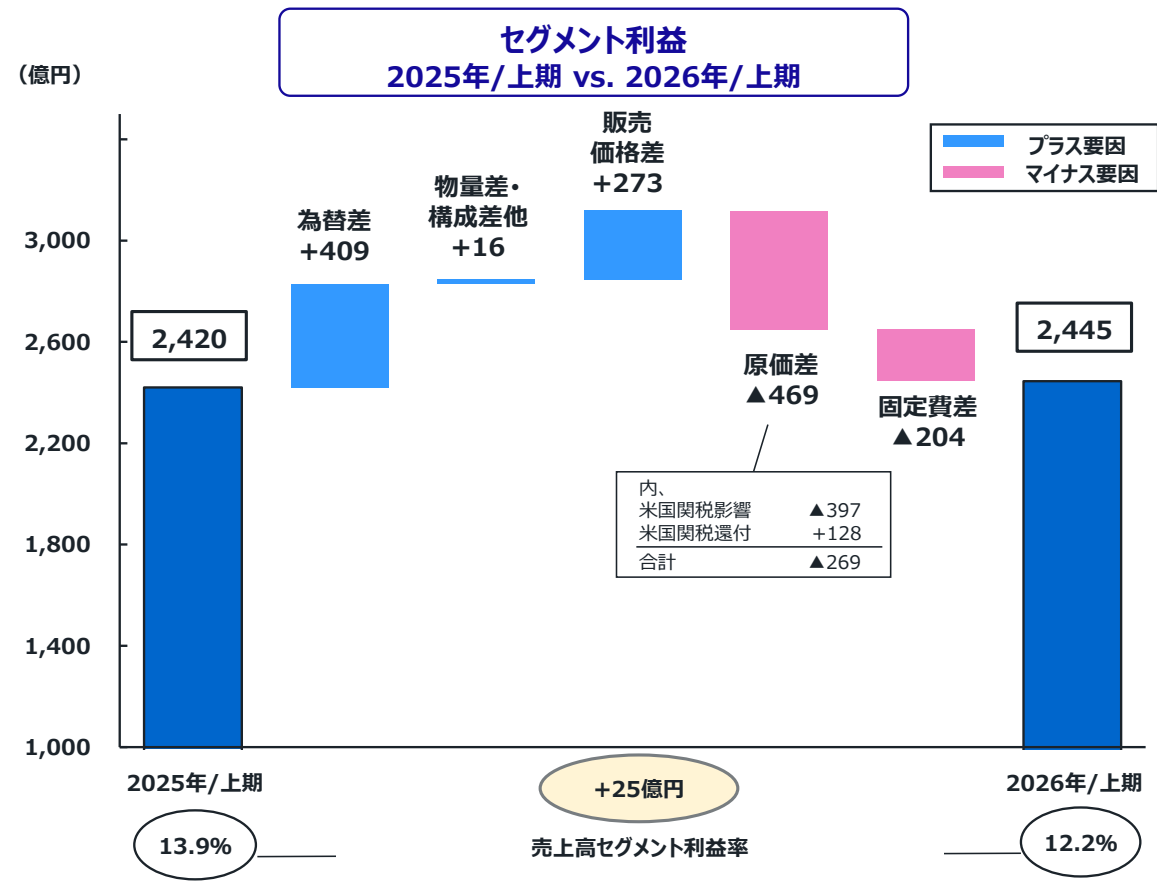
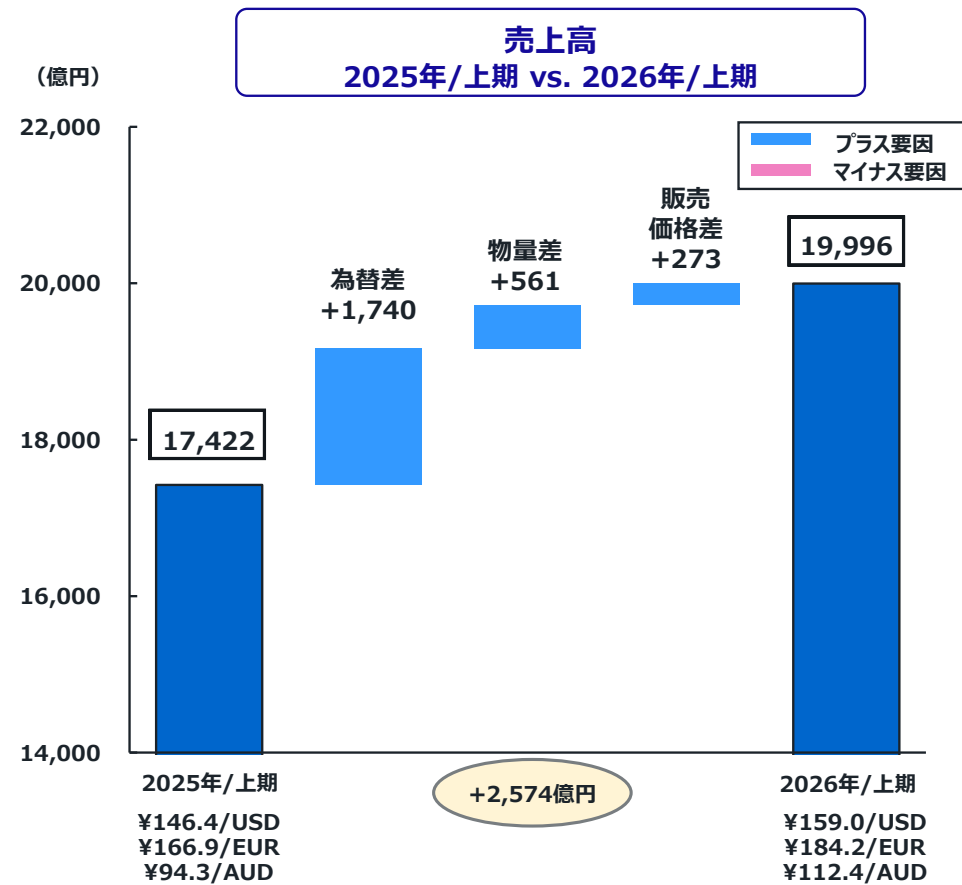


(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年/上期	2,804	687	※ 1,515	274	※ 302	486	863	255	90	1,407	8,682
2026年/上期	3,690	1,033	1,668	389	268	616	911	268	99	1,352	10,294
増減	+886	+347	+153	+115	▲ 35	+131	+48	+14	+9	▲ 55	+1,612
増減 (為替影響除き)	+595	+262	▲ 1	+72	▲ 55	+34	+2	▲ 22	▲ 5	▲ 55	+825

※“中近東”に含まれていた一部地域をFY26より“欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

<建設機械・車両> 2026年度 上期（4-9月）の売上高とセグメント利益の増減要因

- ・売上高は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響により、前年同期比+2,574億円の増収。
- ・セグメント利益は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響が、コスト増などのマイナス影響を上回り、前年同期比+25億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は、前年同期比▲1.7ポイント低下し12.2%。

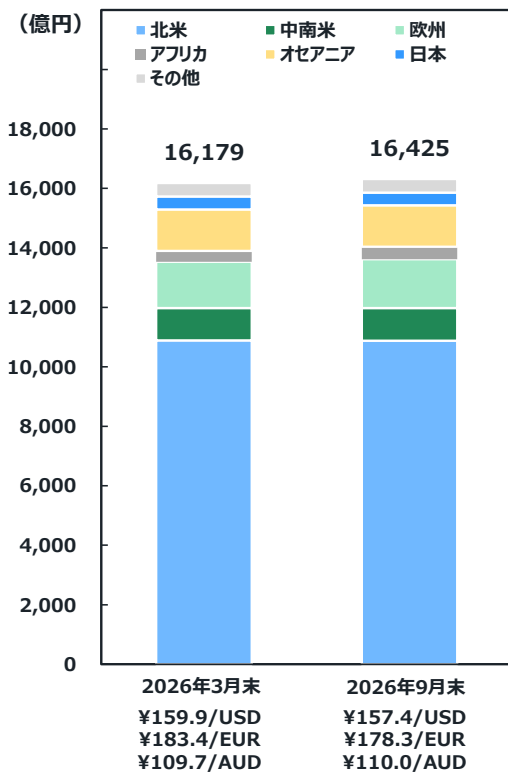


<リテールファイナンス> 2026年度 上期（4-9月）の状況

- ・ 資産は、新規取組高の増加により、前年度末比+246億円の増加。
- ・ 新規取組高は、主に北米、欧州、アフリカでのファイナンス利用増により、前年同期比+1,174億円の増加。
- ・ 売上高、セグメント利益は、主に円安の影響および資産の拡大により、前年同期比+44億円の増収、+5億円の増益。

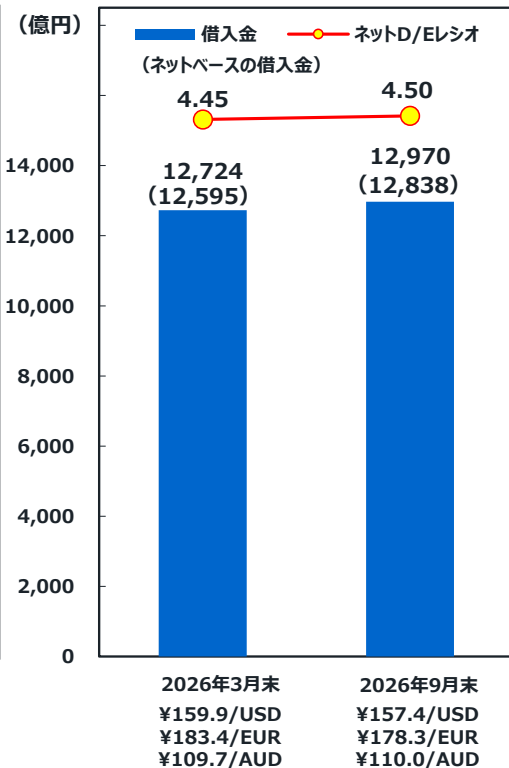
資産

2026年3月末 vs. 2026年9月末



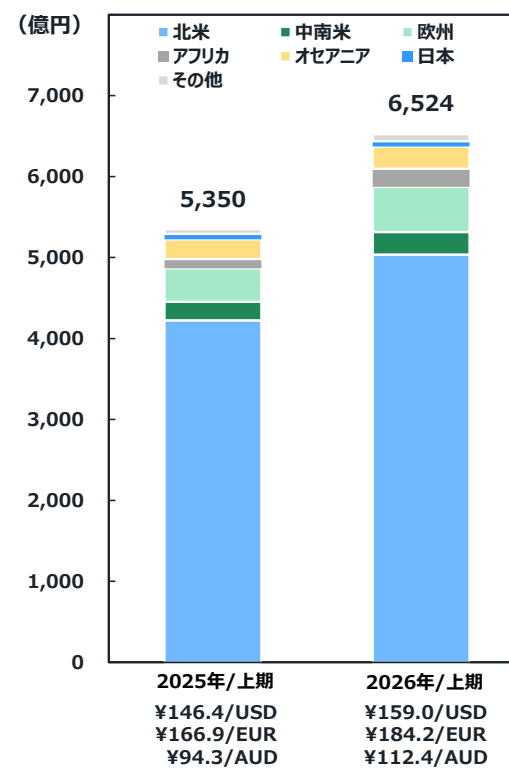
借入金

2026年3月末 vs. 2026年9月末



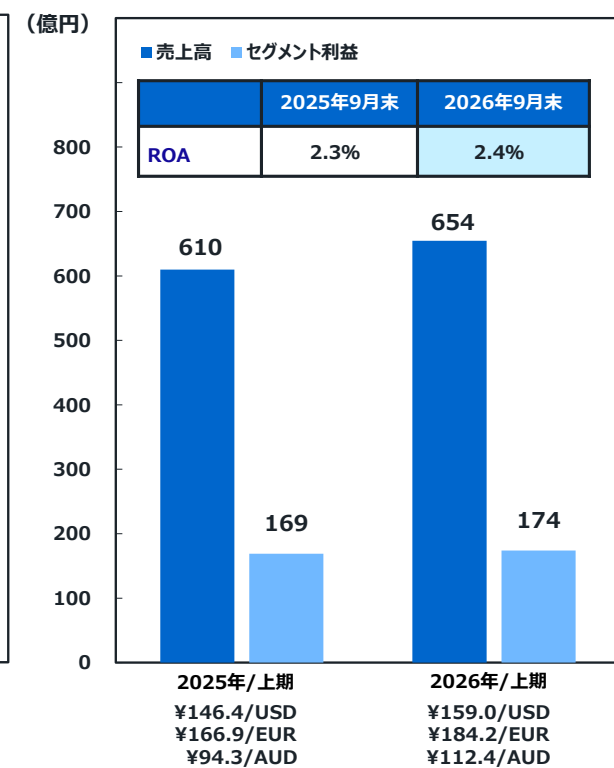
新規取組高

2025年/上期 vs. 2026年/上期



収益

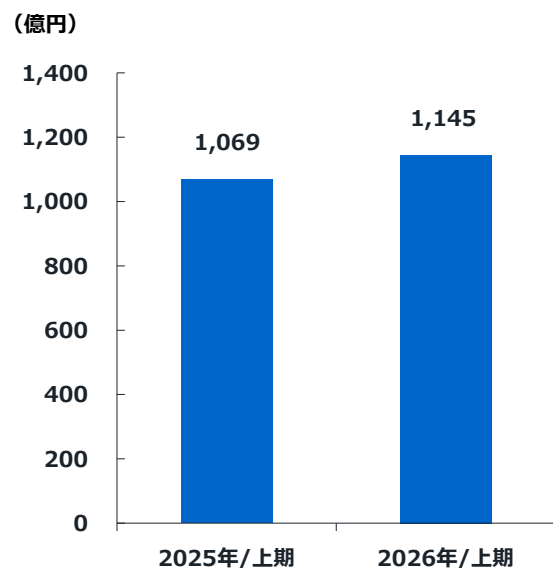
2025年/上期 vs. 2026年/上期



＜産業機械他＞ 2026年度 上期（4-9月）の状況

- ・売上高は、前年同期比+7.1%増収の1,145億円。セグメント利益は、前年同期比+27.0%増益の211億円。
- ・自動車産業向けは減収、半導体産業向けは増収、全体としては増収増益。
- ・売上高セグメント利益率は、前年同期比+2.9ポイント上昇し18.4%。

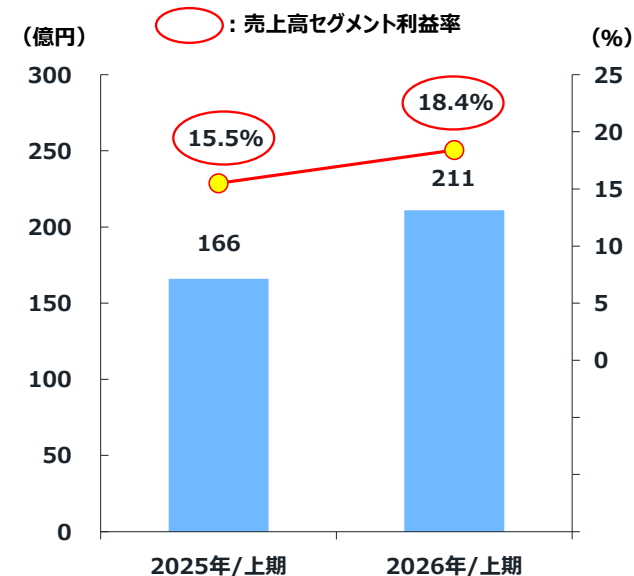
売上高
2025年/上期 vs. 2026年/上期



売上高の内訳

(億円)	2025年/上期	2026年/上期	前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機	335	283	▲52	▲15.5%
コマツNTC	244	176	▲68	▲27.7%
ギガフォトン	322	417	+95	+29.6%
その他	169	269	+100	+59.1%
合 計	1,069	1,145	+76	+7.1%

セグメント利益
2025年/上期 vs. 2026年/上期



連結貸借対照表とフリー・キャッシュ・フロー（FCF）

- ・総資産は、主に棚卸資産の増加により、前年度末比+1,032億円増加の6兆5,272億円。
- ・棚卸資産は、前年度末比+928億円増加の1兆6,947億円。株主資本比率は、前年度末比▲1.5ポイント低下し53.2%。
- ・FCFの2026年度上期実績は、203億円の収入。

連結貸借対照表

金額単位：億円 ○：ネットD/Eレシオ	2026年3月末 ¥159.9/USD ¥183.4/EUR ¥109.7/AUD	2026年9月末 ¥157.4/USD ¥178.3/EUR ¥110.0/AUD	増減
現金・預金（含む定期預金）[a]	4,397	3,813	▲ 584
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	23,368	23,294	▲ 74
棚卸資産	16,019	16,947	+928
有形固定資産	9,824	9,865	+40
その他資産	10,631	11,353	+721
資産合計	64,239	65,272	+1,032
支払手形・買掛金	3,555	3,533	▲ 22
借入金・社債 [b]	13,410	14,463	+1,053
その他負債	10,190	10,613	+423
負債合計	27,155	28,609	+1,454
（株主資本比率）	（54.7%）	（53.2%）	（▲1.5ポイント）
株主資本	35,108	34,700	▲ 408
非支配持分	1,977	1,963	▲ 14
負債及び純資産合計	64,239	65,272	+1,032
ネットD/Eレシオの借入金・社債 [b-a]	0.26 9,013	0.31 10,650	+1,636
ネットD/Eレシオ （リテールファイナンス会社を除いた場合）	▲0.11	▲0.07	

FCF

金額単位：億円	2025年度 /通期	2026年度 /上期	2026年度 /通期 （最新見通し）
営業CF	+4,490	+1,393	+4,800
運転資本	▲ 1,324	▲ 1,404	▲ 1,500
その他	+5,813	+2,798	+6,300
投資CF	▲ 1,992	▲ 1,190	▲ 2,100
FCF	+2,497	+203	+2,700

Ⅱ. 2026年度の業績見通し

2026年度の業績見通し

- ・売上高は、前年比+7.7%増収の4兆4,500億円（7月公表から+1,480億円上方修正）。
- ・営業利益は、前年比+3.1%増益の5,850億円（7月公表から+300億円上方修正）。
- ・売上高営業利益率は、前年比▲0.6ポイント低下し13.1%。
- ・純利益は、前年比+1.5%増益の3,820億円（7月公表から+330億円上方修正）。

（※1）7月見通しは第2四半期以降、最新見通しは第3四半期以降の為替の前提：1ドル:150円、1ユーロ:174円、1豪ドル106円

金額単位：億円	2025年度 (A) ¥150.5/USD ¥173.8/EUR ¥99.2/AUD	2026年度 (最新見通し) (B) ¥154.5/USD ¥179.1/EUR ¥109.2/AUD	2026年度 (7月見通し) (C) ¥152.1/USD ¥176.6/EUR ¥107.6/AUD	業績見通し 修正額 (B) - (C)	前年比	
				増減	増減	増減率
売上高	41,328	44,500	43,020	+1,480	+3,172	+7.7%
セグメント利益	5,712	5,870	5,600	-	+158	+2.8%
その他の営業収益(▲費用)	▲ 38	▲ 20	▲ 50	-	+18	-
営業利益	5,673	5,850	5,550	+300	+177	+3.1%
売上高営業利益率	13.7%	13.1%	12.9%	-	▲0.6ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲ 301	▲ 370	▲ 470	-	▲ 69	-
税引前当期純利益	5,373	5,480	5,080	+400	+107	+2.0%
当社株主に帰属する当期純利益	3,764	3,820	3,490	+330	+56	+1.5%

ROE	11.3%	11.0%	(※2) 10.1%	+0.9ポイント	▲0.3ポイント
1株当たり配当金（円）	190円	190円	190円	±0円	±0円
連結配当性向	45.9%	44.2%	(※2) 48.6%		

（※2）自己株式取得の影響を考慮していない

売上高・営業利益への為替感応度（1円変動/年）

	売上高	営業利益
USD	151億円	46億円
EUR	30億円	6億円
AUD	42億円	3億円

2026年度の各セグメント売上高と利益の見通し

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年比+8.2%増収の4兆1,200億円。セグメント利益は、前年比+2.6%増益の5,040億円。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年比+2.7%増収の1,295億円。セグメント利益は、前年比▲0.2%減益の365億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年比+7.9%増収の2,575億円。セグメント利益は、前年比+16.0%増益の440億円。

金額単位：億円		2025年度		2026年度 (最新見通し)		2026年度 (7月見通し)		前年比 (B) - (A)	
		(A)		(B)				増減	増減率
売上高		41,328		44,500		43,020		+3,172	+7.7%
	建設機械・車両	(37,961)	38,060	(40,923)	41,200	(39,494)	39,700	(+2,962) +3,140	(+7.8%) +8.2%
	リテールファイナンス	(1,005)	1,261	(1,032)	1,295	(1,028)	1,285	(+27) +34	(+2.6%) +2.7%
	産業機械他	(2,361)	2,388	(2,545)	2,575	(2,498)	2,520	(+184) +188	(+7.8%) +7.9%
	消去	▲ 382		▲ 570		▲ 485		▲ 188	-
セグメント利益		13.8%	5,712	13.2%	5,870	13.0%	5,600	▲0.6ポイント + 158	+2.8%
	建設機械・車両	12.9%	4,911	12.2%	5,040	12.1%	4,810	▲0.7ポイント + 129	+2.6%
	リテールファイナンス	29.0%	366	28.2%	365	28.4%	365	▲0.8ポイント ▲ 1	▲0.2%
	産業機械他	15.9%	379	17.1%	440	16.5%	415	+1.2ポイント +61	+16.0%
	消去または全社	55		25		10		▲ 30	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

売上は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響により増収。
利益は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響が、コスト増などのマイナス影響を上回り増益。

■ リテールファイナンス

売上は、主に資産の拡大に伴い増収。利益は、主にコスト増加により前年並み。

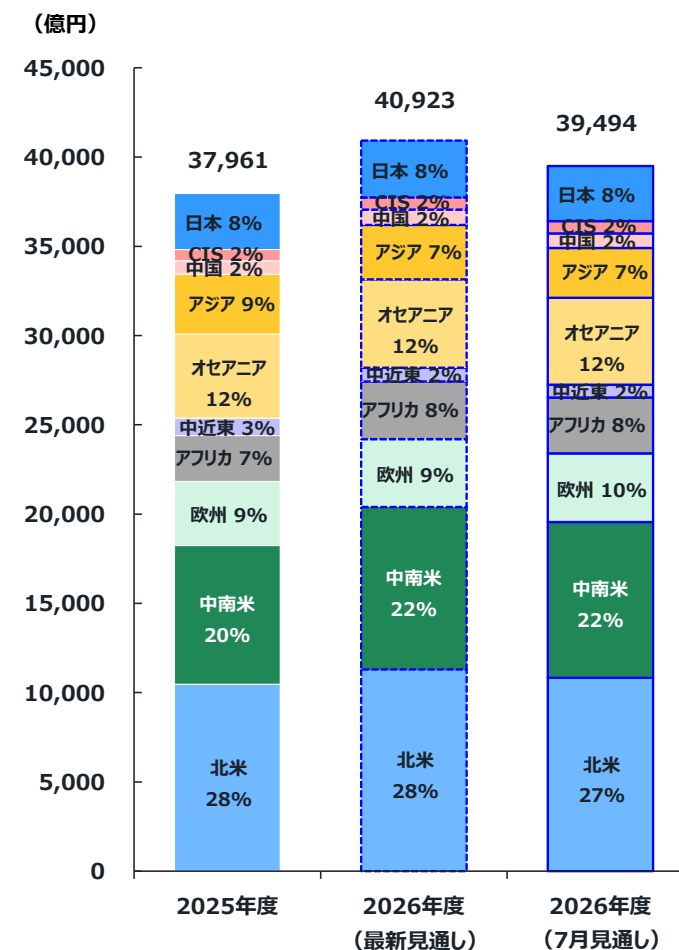
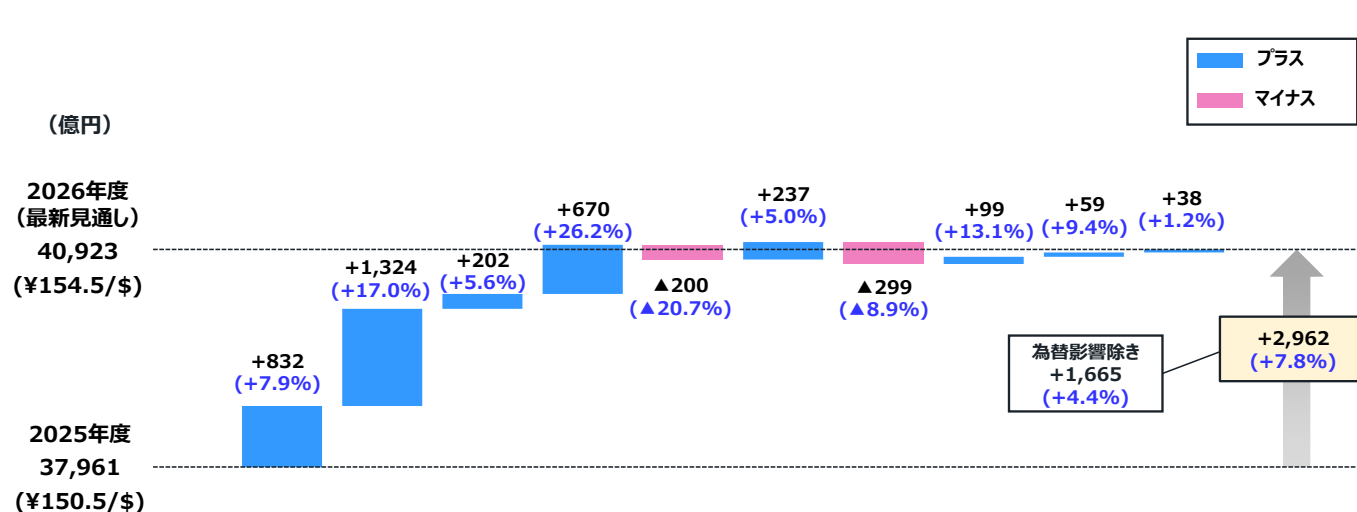
■ 産業機械他

自動車産業向けは、主に大型プレスの販売が減少する一方、半導体産業向けでは、顧客の増産基調を受けて販売が増加し、全体では増収増益。

％：利益率 ()：外部顧客向け売上高

＜建設機械・車両＞2026年度の地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

・外部顧客向け売上高は、前年比+7.8%増収の4兆923億円。為替影響を除くと、前年比+4.4%増収の見通し。

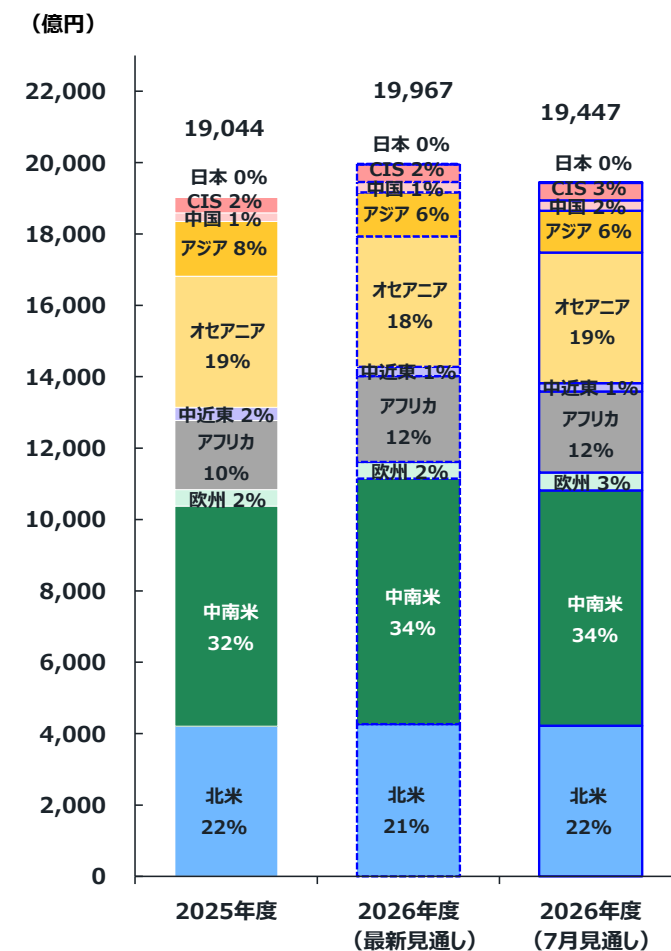
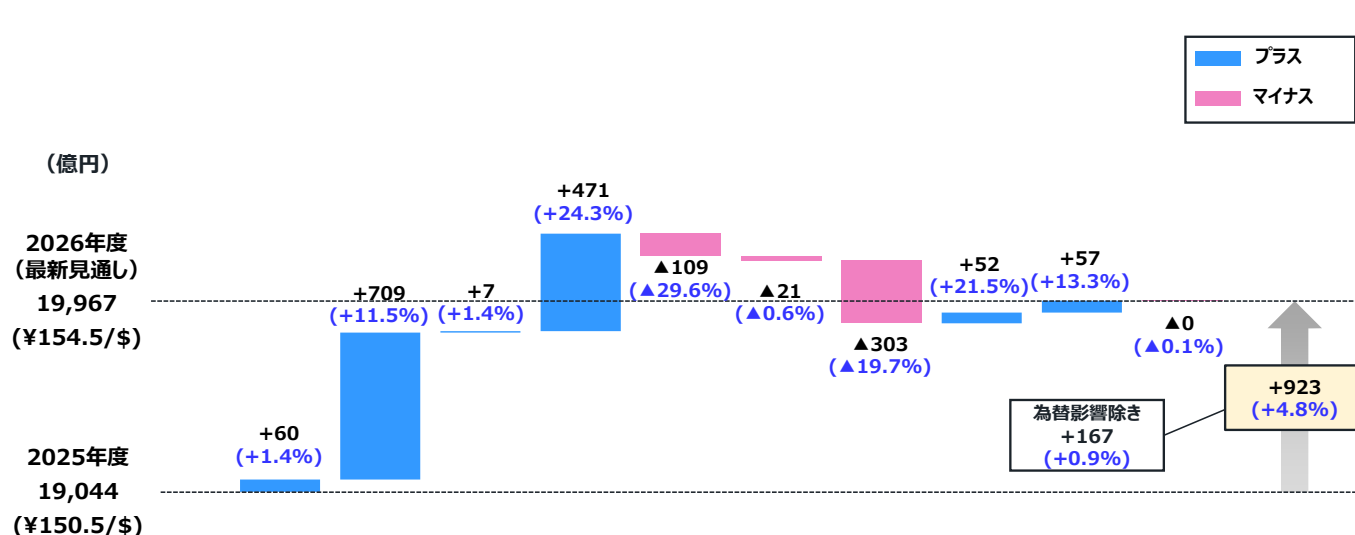


(億円)	米州		欧州		アフリカ 中近東		オセアニア アジア CIS		日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国 CIS		
2025年度	10,472	7,769	※ 3,600	2,563	※ 965	4,716	3,349	757 625	3,145	37,961
2026年度 (最新見通し)	11,304	9,093	3,802	3,233	765	4,952	3,050	857 684	3,183	40,923
増減	+832	+1,324	+202	+670	▲ 200	+237	▲ 299	+99 +59	+38	+2,962
増減 (為替影響除き)	+529	+1,075	+129	+504	▲ 211	▲ 151	▲ 327	+54 +26	+37	+1,665

※“中近東”に含まれていた一部地域をFY26より“欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

＜建設機械・車両＞（鉱山機械）2026年度の地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

- ・外部顧客向け売上高は、前年比+4.8%増収の1兆9,967億円。為替影響を除くと、前年比+0.9%増収の見通し。
- ・アジアの石炭向け需要減少、中東情勢の影響による中近東の減収を、銅・金鉱山向け需要が堅調な中南米やアフリカの増収で補い、全体では前年並み。

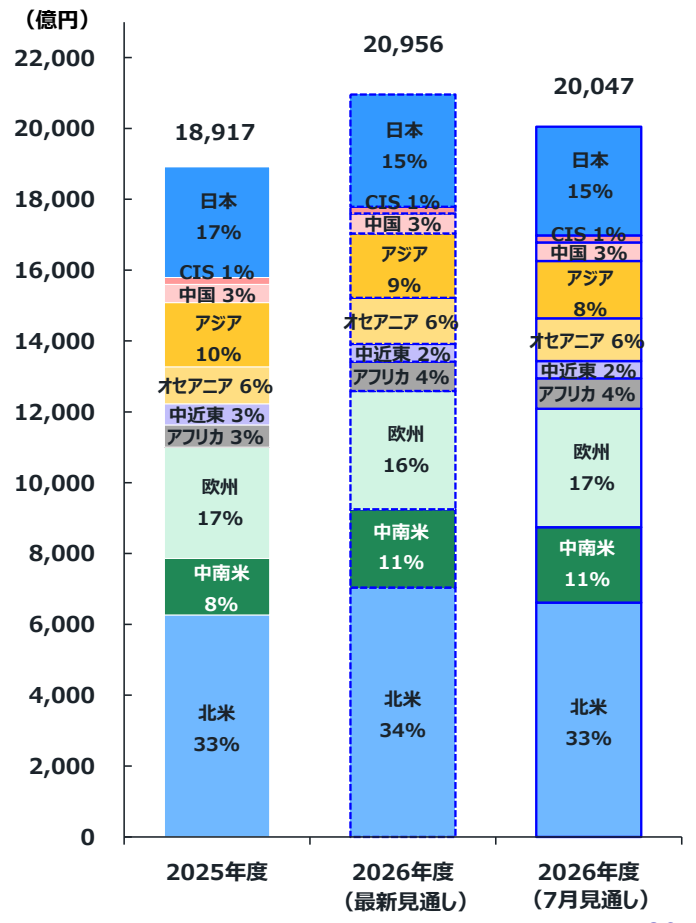
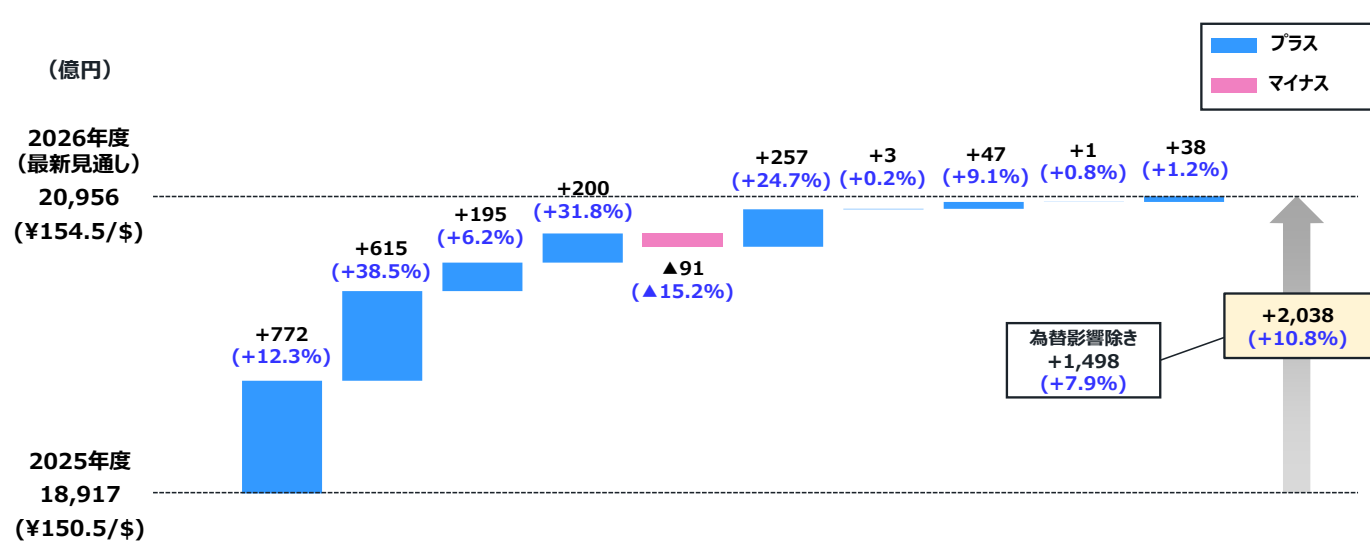


(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年度	4,206	6,172	※ 459	1,936	※ 369	3,673	1,536	242	433	18	19,044
2026年度 (最新見通し)	4,265	6,881	466	2,407	260	3,653	1,233	294	490	18	19,967
増減	+60	+709	+7	+471	▲ 109	▲ 21	▲ 303	+52	+57	▲ 0	+923
増減 (為替影響除き)	▲ 42	+515	▲ 2	+344	▲ 108	▲ 303	▲ 314	+41	+36	▲ 0	+167

※”中近東”に含まれていた一部地域をFY26より”欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

<建設機械・車両>（一般建機）2026年度の地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

- ・外部顧客向け売上高は、前年比+10.8%増収の2兆956億円。為替影響を除くと、前年比+7.9%増収の見通し。
- ・中東情勢の影響により中近東で減収を見込むものの、北米や中南米などの増収により、全体では増収の見通し。



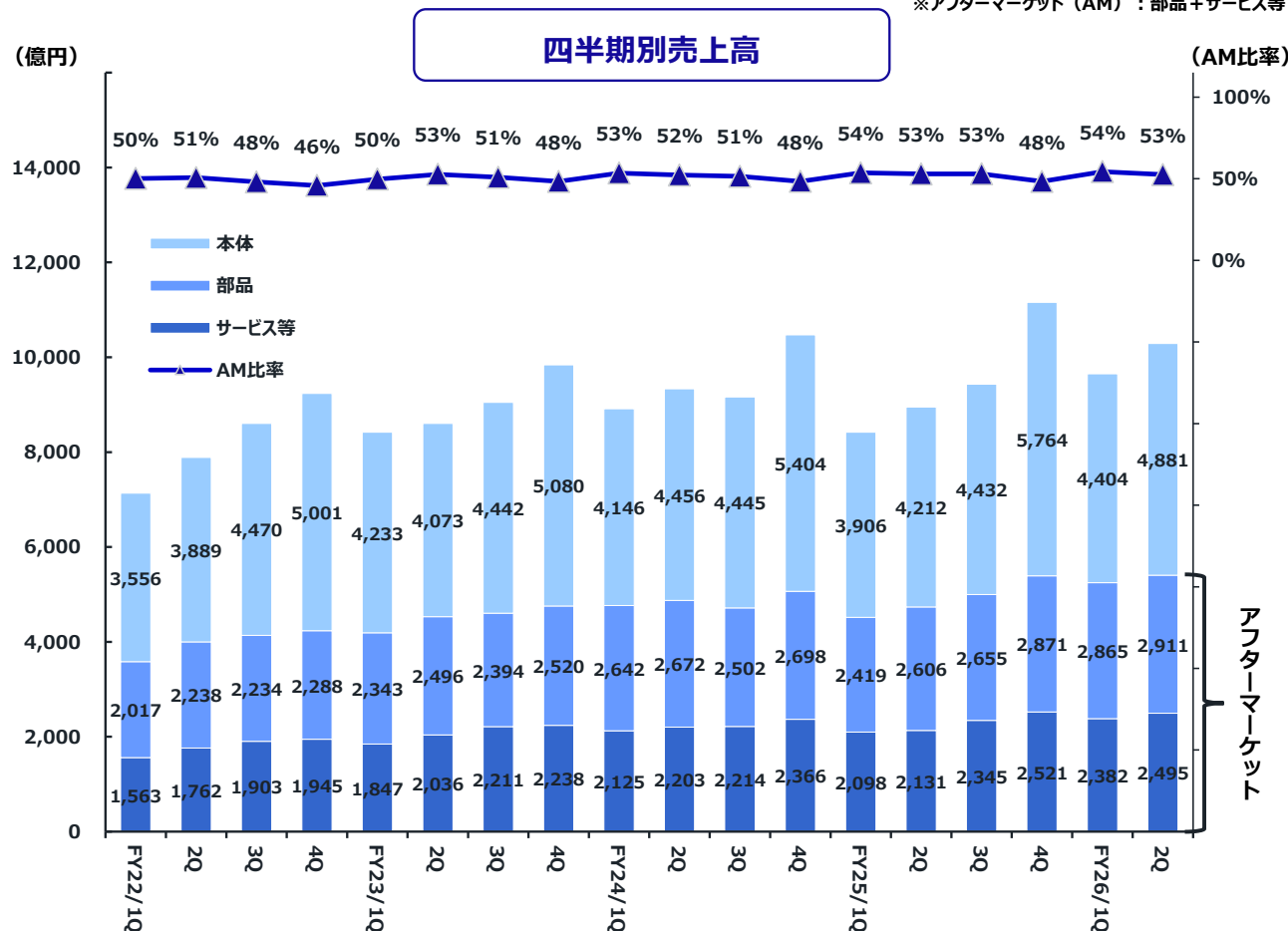
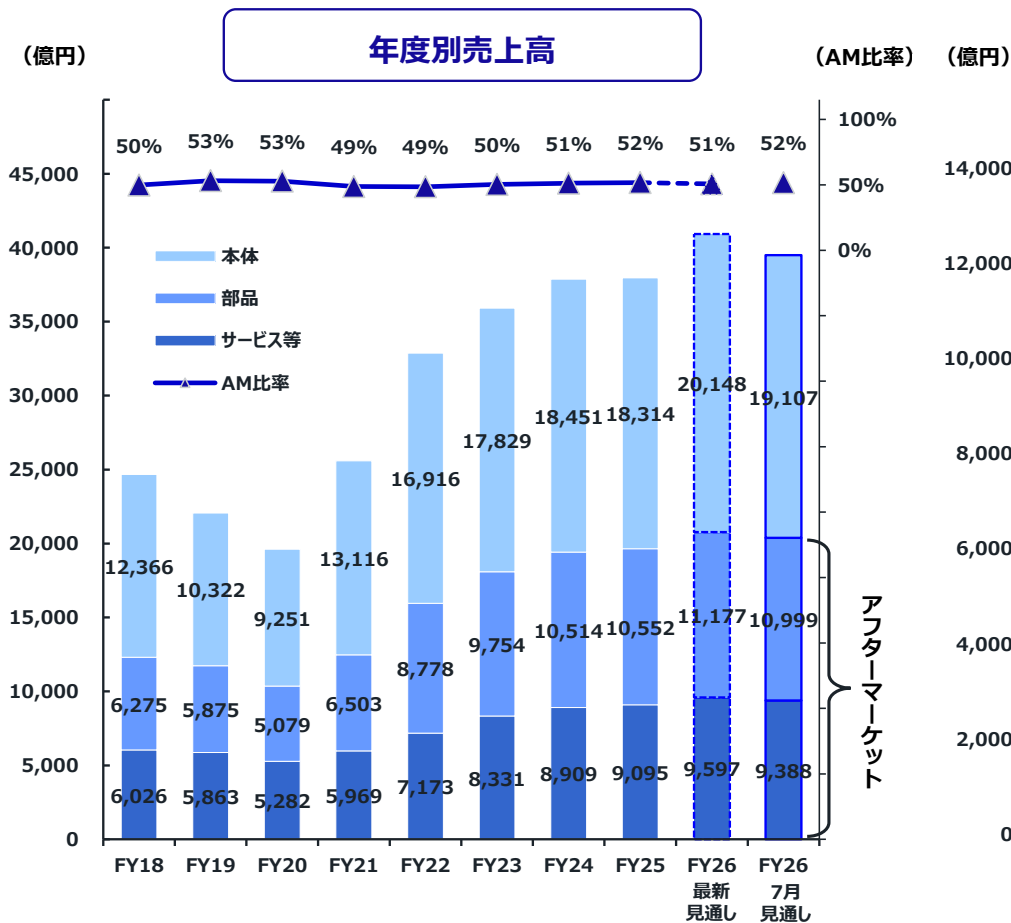
(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年度	6,266	1,597	※ 3,141	627	※ 597	1,042	1,814	515	192	3,127	18,917
2026年度 (最新見通し)	7,038	2,212	3,337	826	506	1,300	1,817	562	193	3,165	20,956
増減	+772	+615	+195	+200	▲ 91	+257	+3	+47	+1	+38	+2,038
増減 (為替影響除き)	+572	+560	+131	+159	▲ 103	+151	▲ 12	+13	▲ 9	+37	+1,498

※”中近東”に含まれていた一部地域をFY26より”欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

<建設機械・車両> 本体・部品・サービス等の売上高（外部顧客向け）の見通し

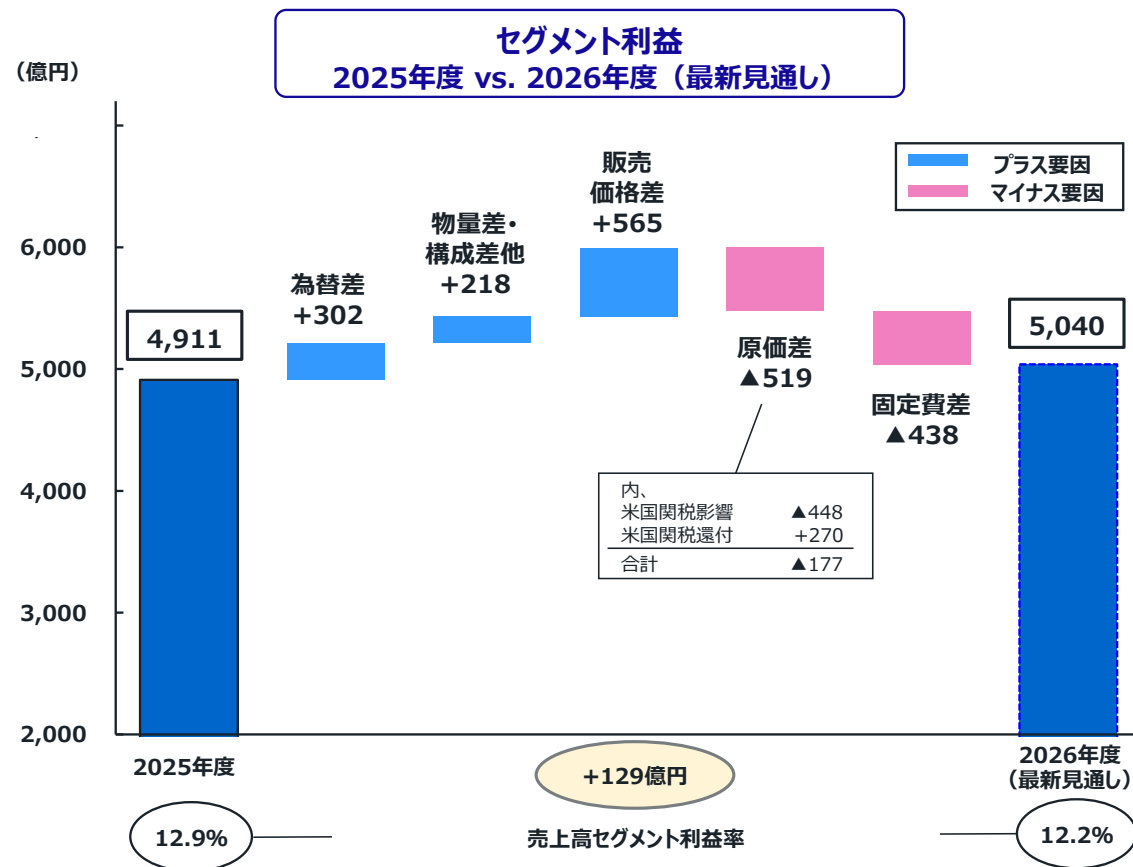
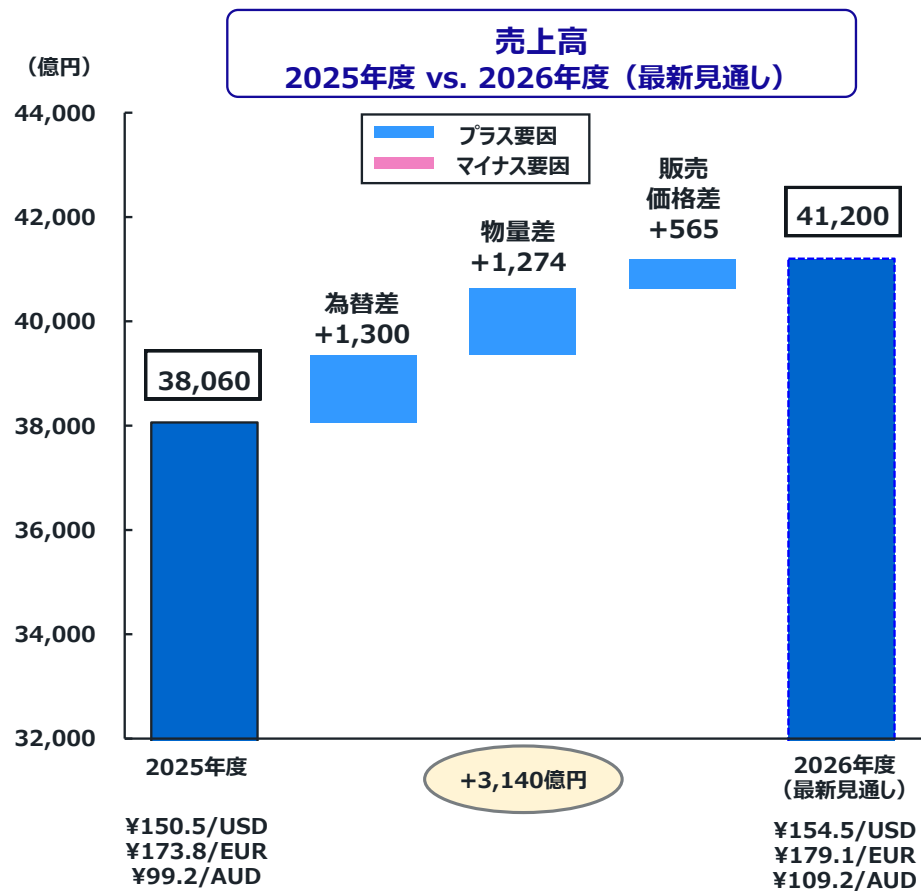
- ・2026年度第2四半期の部品売上高は、前年同期比+11.7%増収の2,911億円。
- ・2026年度の部品売上高は、前年比+5.9%増収の1兆1,177億円の見通し（7月見通しより変更）。

※アフターマーケット（AM）：部品+サービス等



＜建設機械・車両＞ 2026年度の売上高とセグメント利益の見通しの増減要因

- ・売上高は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響により、前年比+3,140億円の増収の見通し。
- ・セグメント利益は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響が、コスト増などのマイナス影響を上回り、前年比+129億円の増益の見通し。
- ・売上高セグメント利益率は、前年比▲0.7ポイント低下し12.2%の見通し。

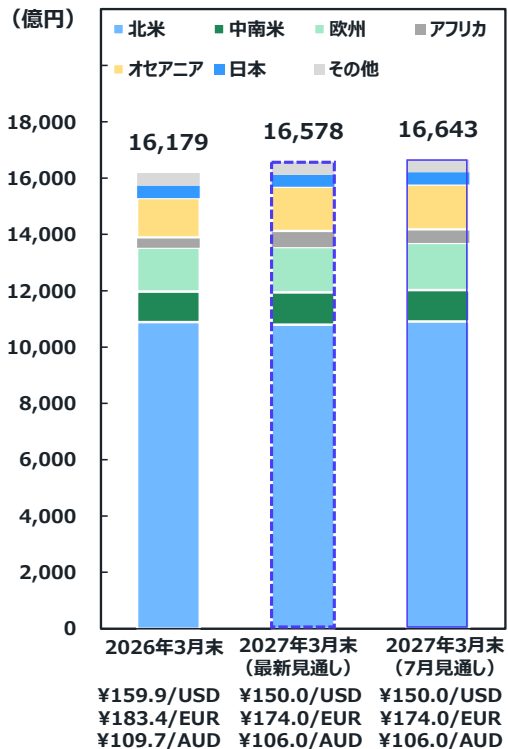


<リテールファイナンス> 2026年度の見通し

- ・ 資産は、新規取組高の増加により、前年度末比+400億円の増加の見通し。
- ・ 新規取組高は、北米、欧州、オセアニア、アフリカでのファイナンス利用増により、前年比+1,065億円の増加の見通し。
- ・ 売上高は、主に資産の拡大に伴い、前年比+34億円の増収。セグメント利益は、主にコスト増加により、前年並みの見通し。

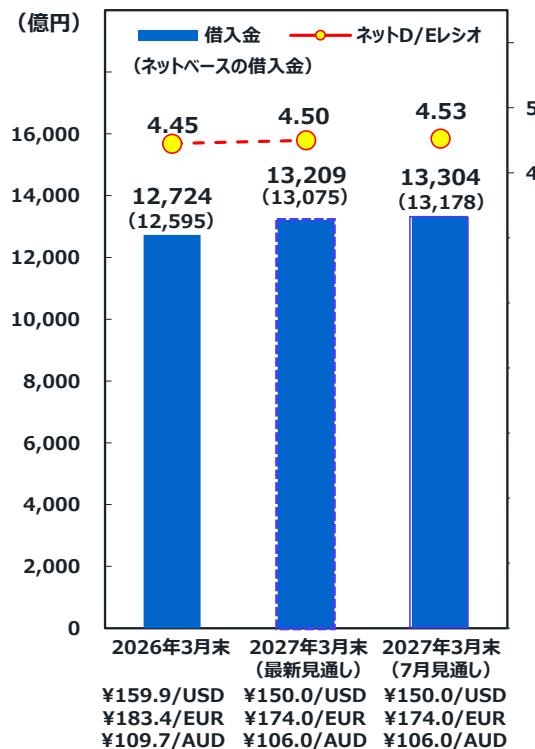
資産

2026年3月末 vs. 2027年3月末
(最新見通し)



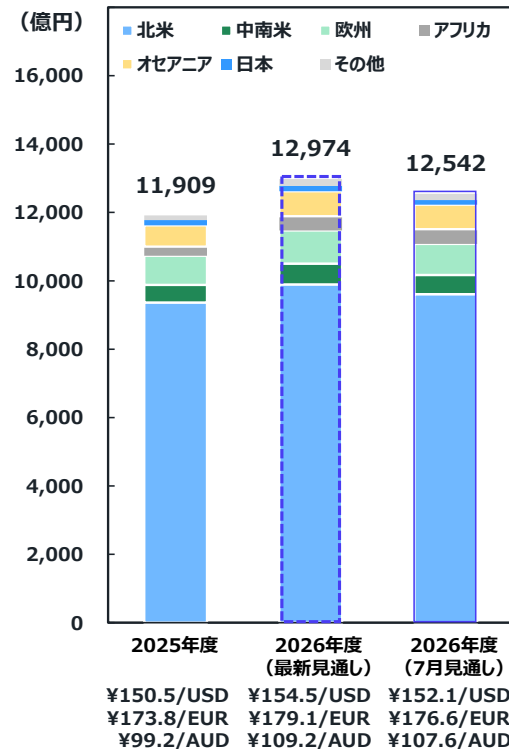
借入金

2026年3月末 vs. 2027年3月末
(最新見通し)



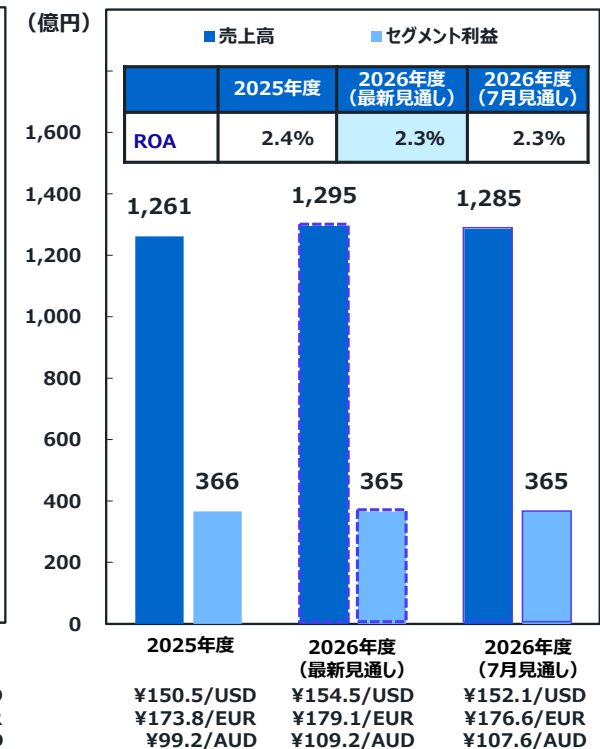
新規取組高

2025年度 vs. 2026年度
(最新見通し)



収益

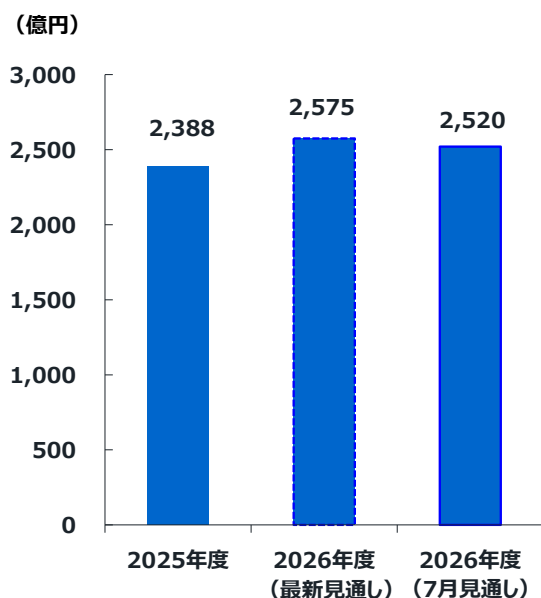
2025年度 vs. 2026年度
(最新見通し)



＜産業機械他＞ 2026年度の見通し

- ・売上高は、前年比+7.9%増収の2,575億円、セグメント利益は、前年比+16.0%増益の440億円となる見通し。
- ・自動車産業向けは主に大型プレスの販売が減少する一方、半導体産業向けでは顧客の増産基調を受けて販売が増加し、全体では増収増益となる見通し。
- ・売上高セグメント利益率は、前年比+1.2ポイント上昇し17.1%の見通し。

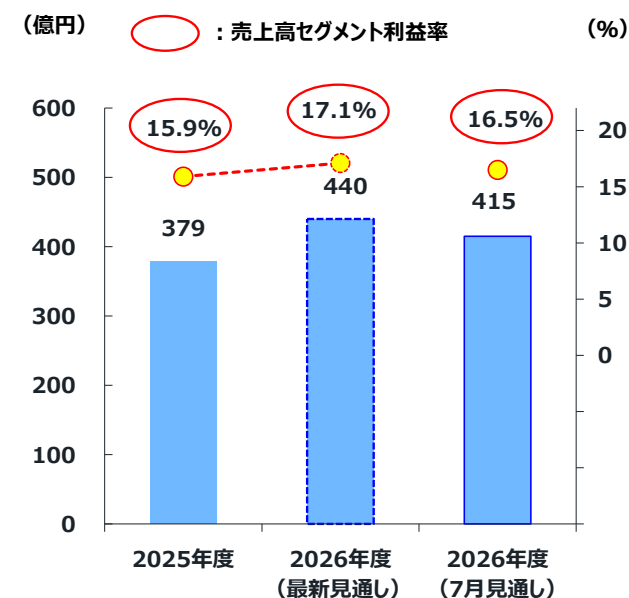
売上高
2025年度 vs. 2026年度（最新見通し）



売上高の内訳

(億円)	2025年度 (A)	2026年度 (最新見通し) (B)	2026年度 (7月見通し)	前年比 (B) - (A)	
				増減	増減率
コマツ産機	691	625	631	▲67	▲9.7%
コマツNTC	476	467	473	▲8	▲1.7%
ギガフoton	696	877	842	+181	+26.0%
その他	525	606	574	+81	+15.5%
合 計	2,388	2,575	2,520	+188	+7.9%

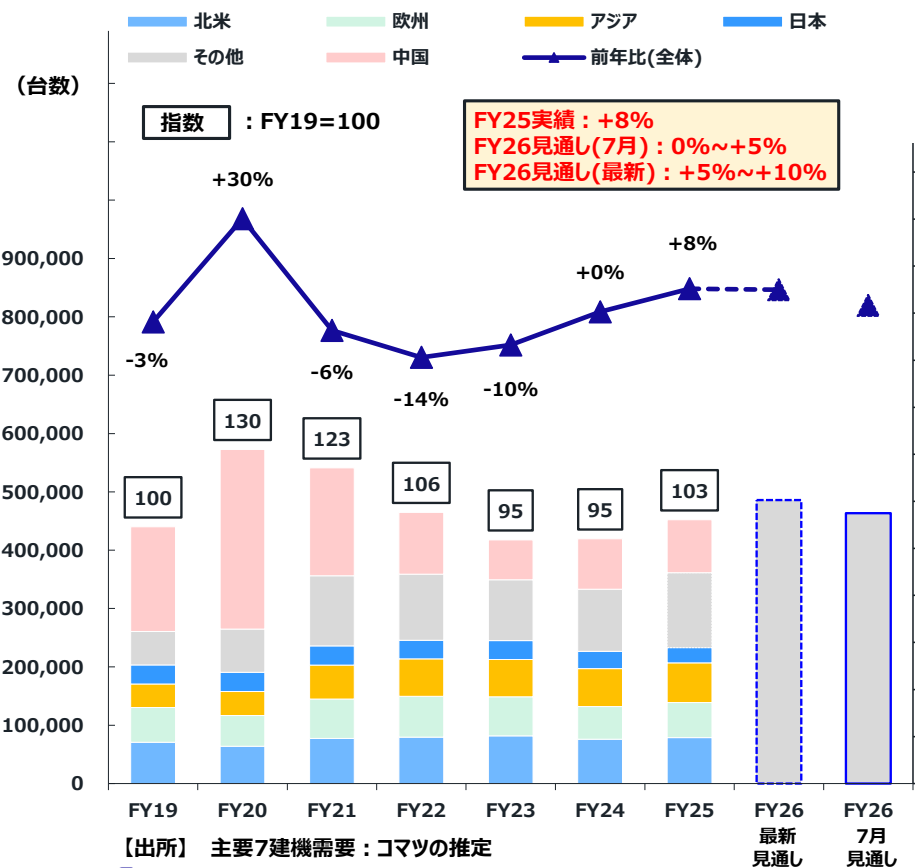
セグメント利益
2025年度 vs. 2026年度（最新見通し）



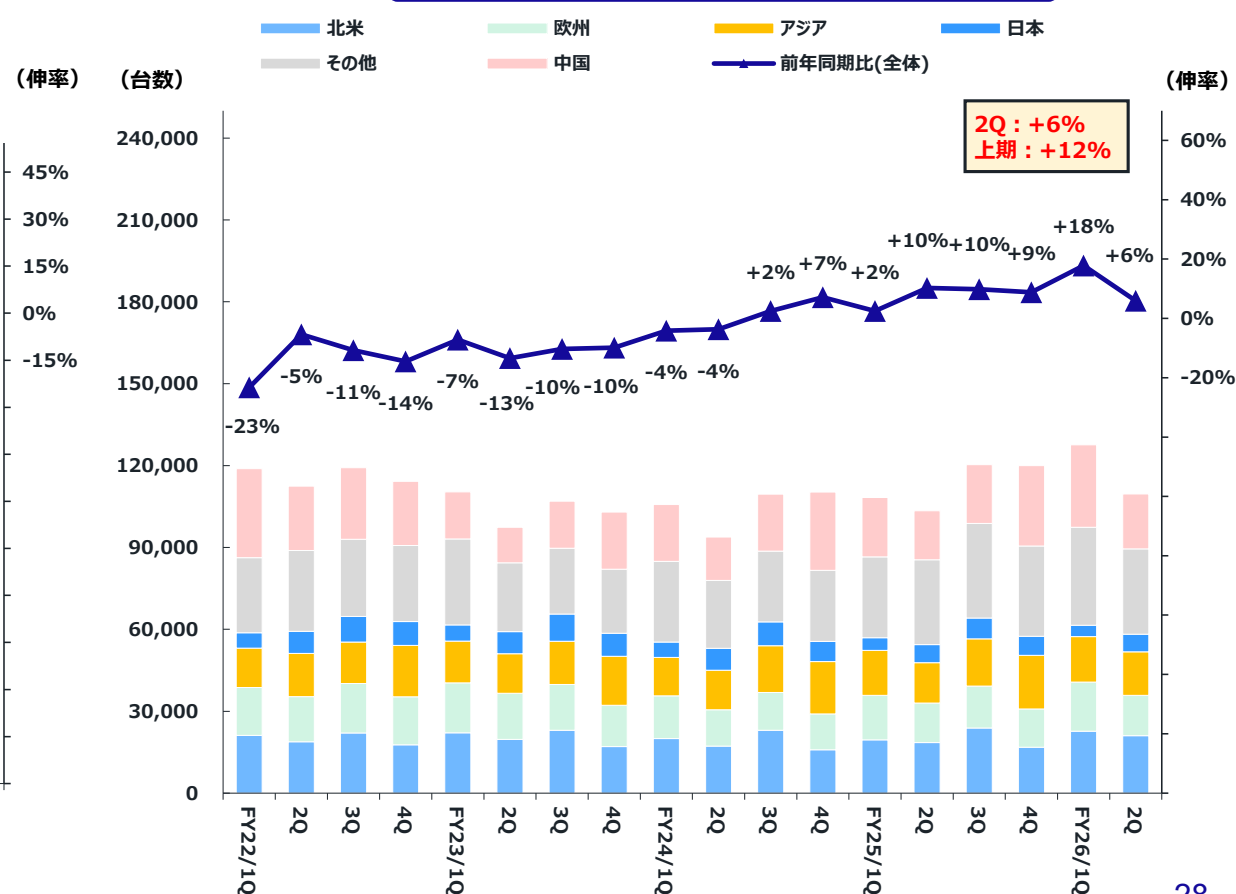
＜建設機械・車両＞ 主要7建機の需要推移と見通し

- ・2026年度第2四半期の需要は、前年同期比+6%の増加。
- ・2026年度の需要は、前年比+5%～+10%の見通し（7月見通しより変更）。

主要7建機 年度別需要推移



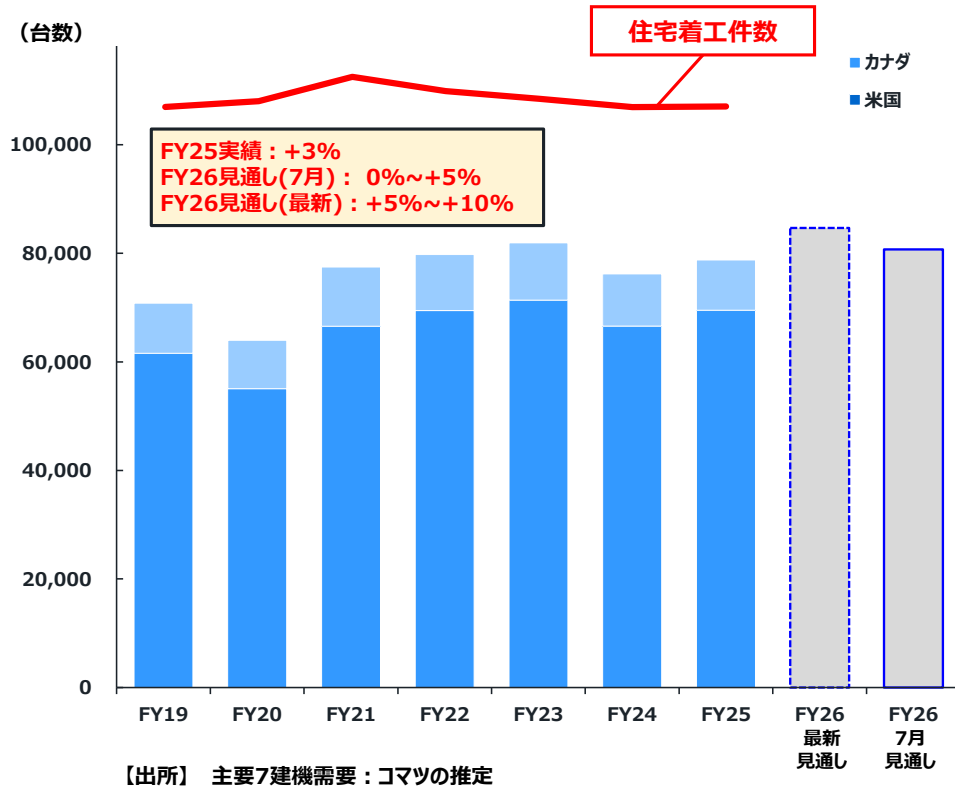
主要7建機 四半期別需要推移



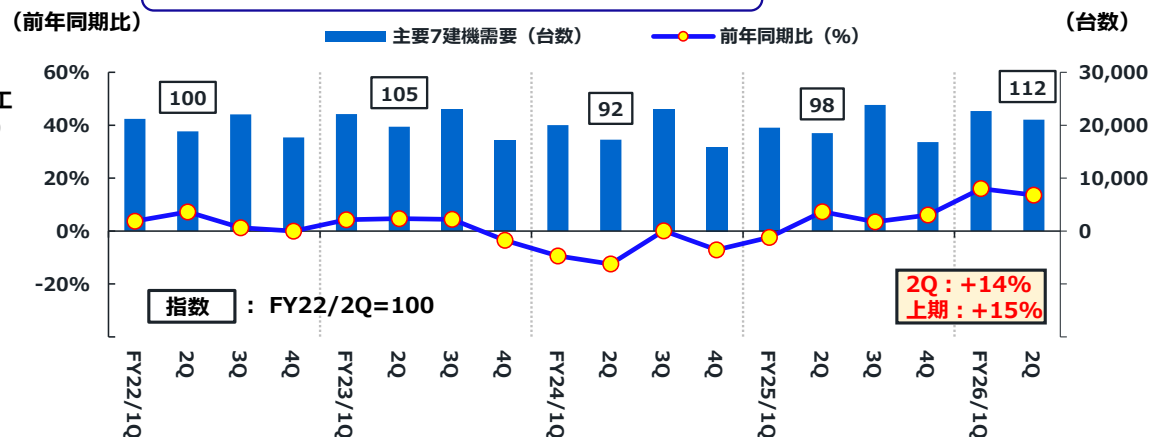
＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：①北米

- ・2026年度第2四半期の需要は、前年同期比+14%の増加。データセンター投資によるレンタル向け需要増加に加え、鉱山・エネルギー向けが堅調に推移。
- ・2026年度の需要は、前年比+5%～+10%の見通し（7月見通しより変更）。

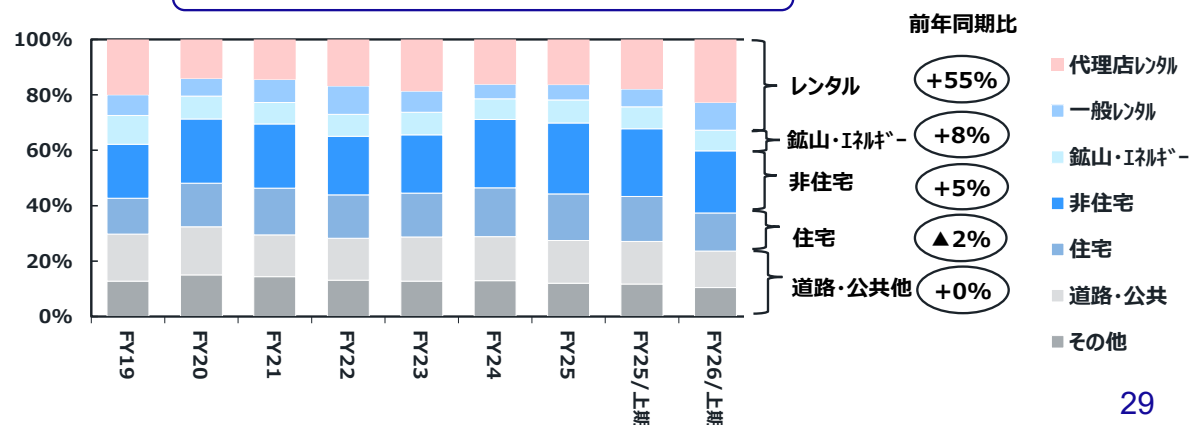
主要7建機 年度別需要推移と住宅着工件数



主要7建機 四半期需要推移



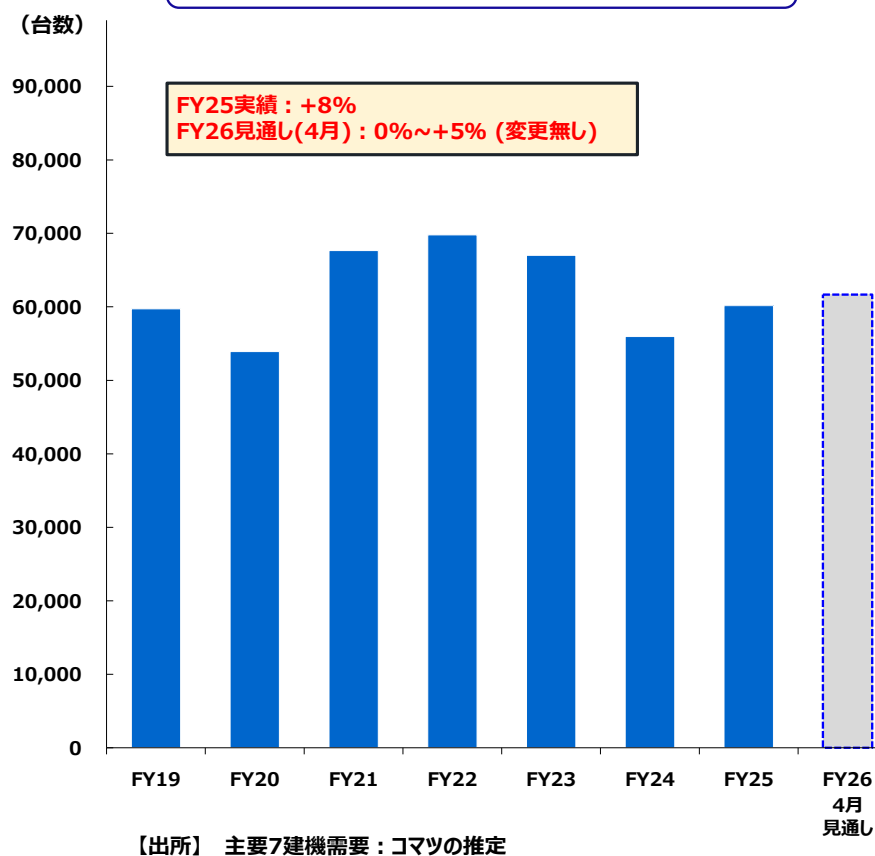
セグメント別需要構成比 (台数ベース)



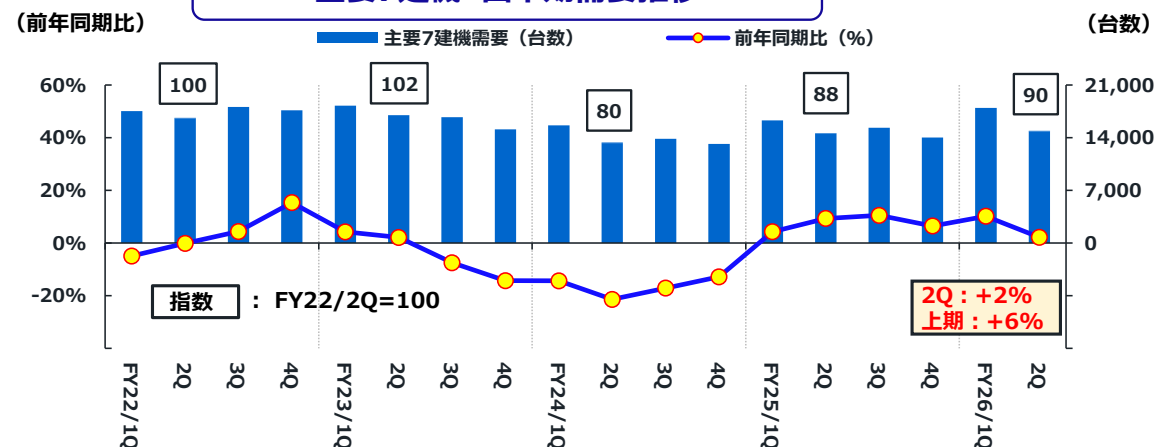
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②欧州

- ・2026年度第2四半期の需要は、前年同期比+2%の増加。
- ・2026年度の需要は、前年比0%～+5%の見通し（4月見通しから変更無し）。ドイツ、英国を中心に、公共投資が需要を牽引。

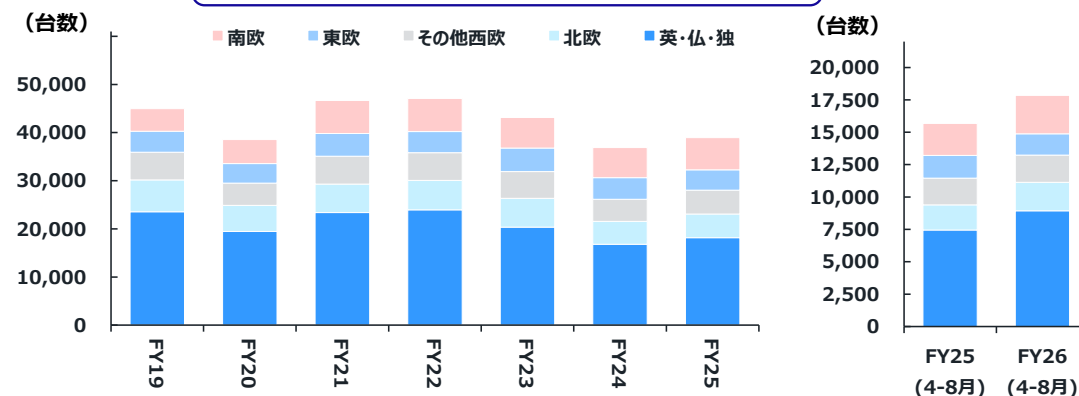
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移

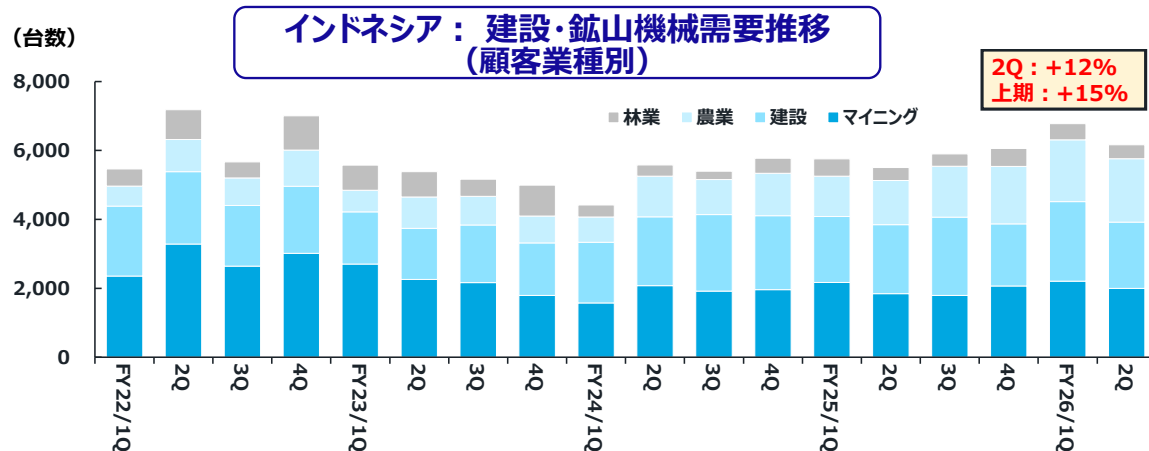
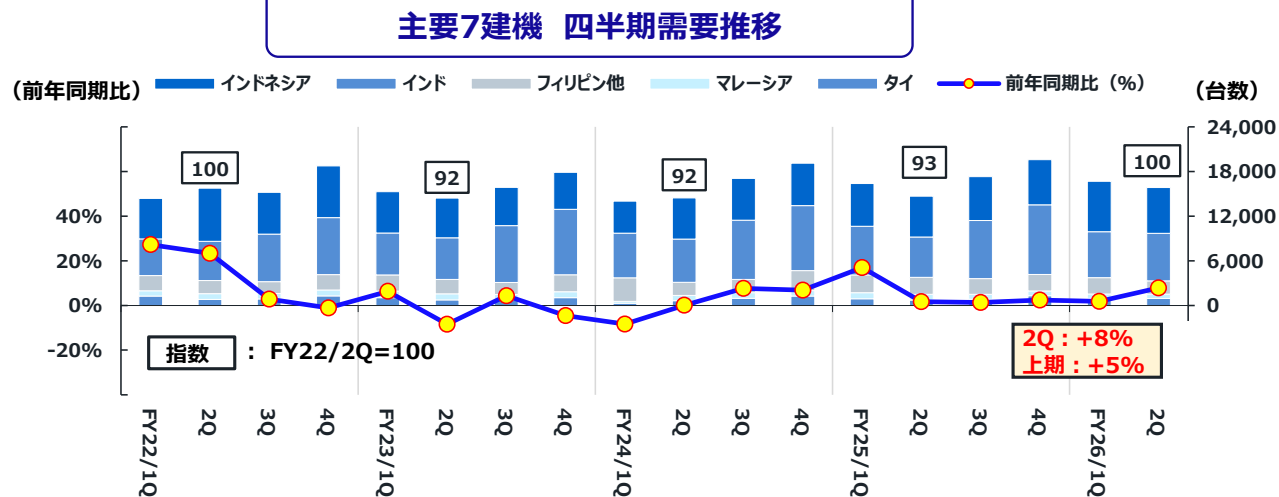
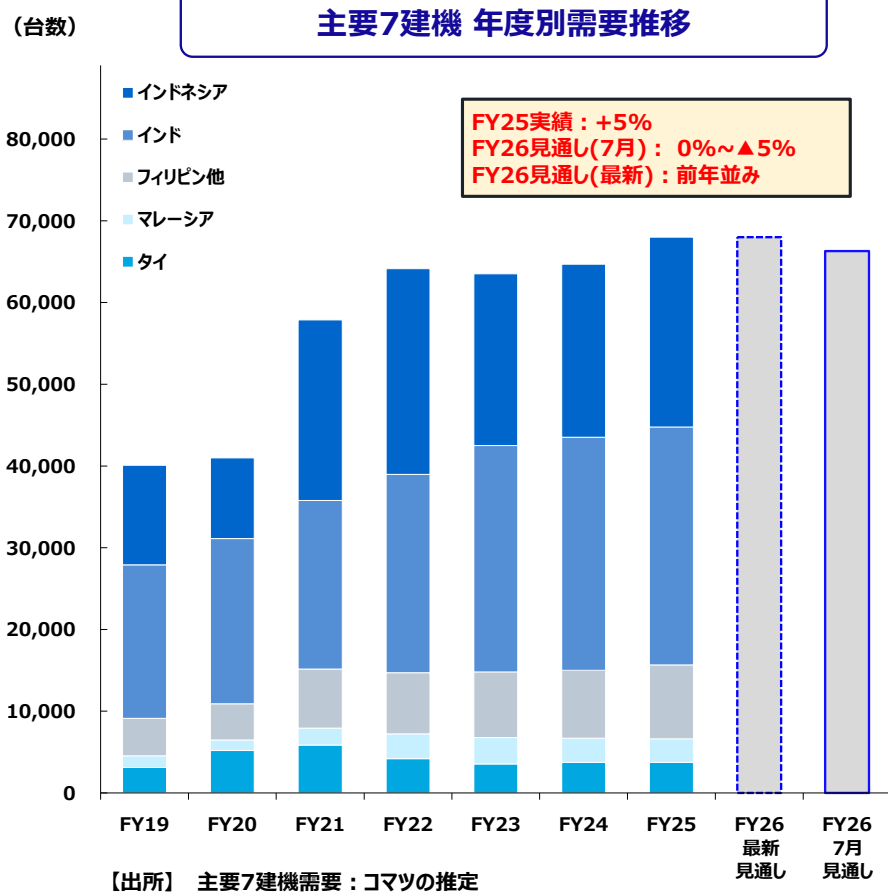


主要7建機（6tクラス除く）地域別需要



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：③アジア

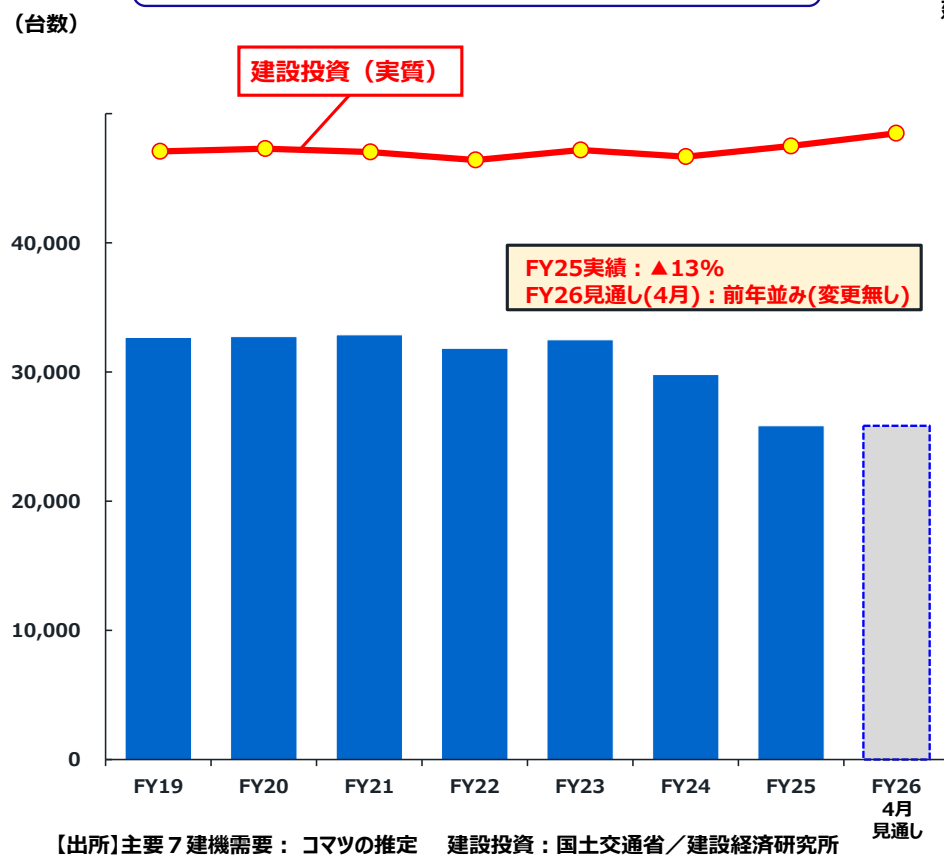
- ・2026年度第2四半期の需要は、前年同期比+8%の増加。
- ・2026年度の需要は、前年並みの見通し（7月見通しより変更）。インドネシアでは農業セクター向け需要が堅調である一方、石炭向け需要は依然低迷。インドでは公共事業・経済成長が需要を下支え。その他のアジア諸国では一部の国においてエネルギー価格高騰の影響を受け需要減少。



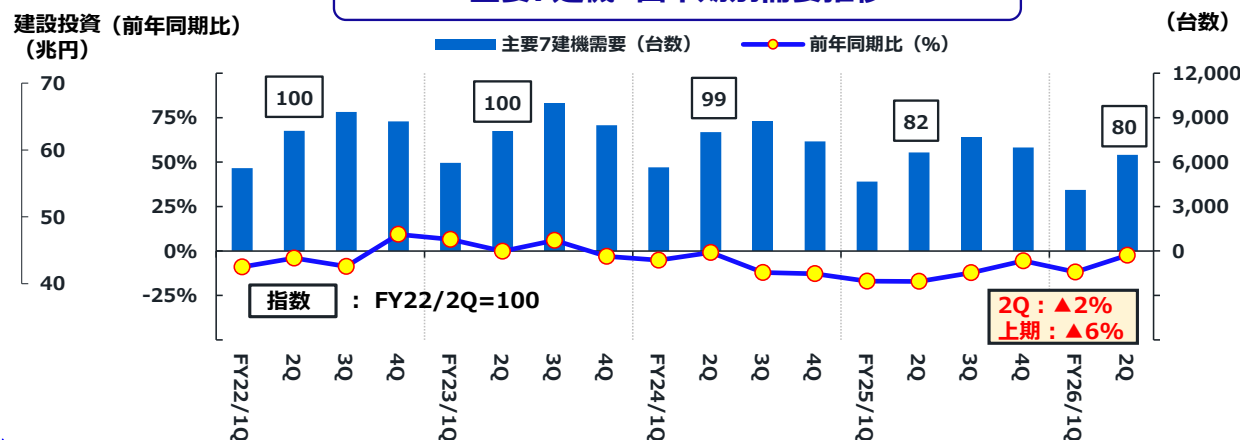
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：④日本

- ・2026年度第2四半期の需要は、前年同期比▲2%の減少。一般向け、レンタル向けともに第1四半期の大幅減少からは緩やかに回復。
- ・2026年度の需要は、前年並みの見通し（4月見通しから変更無し）。

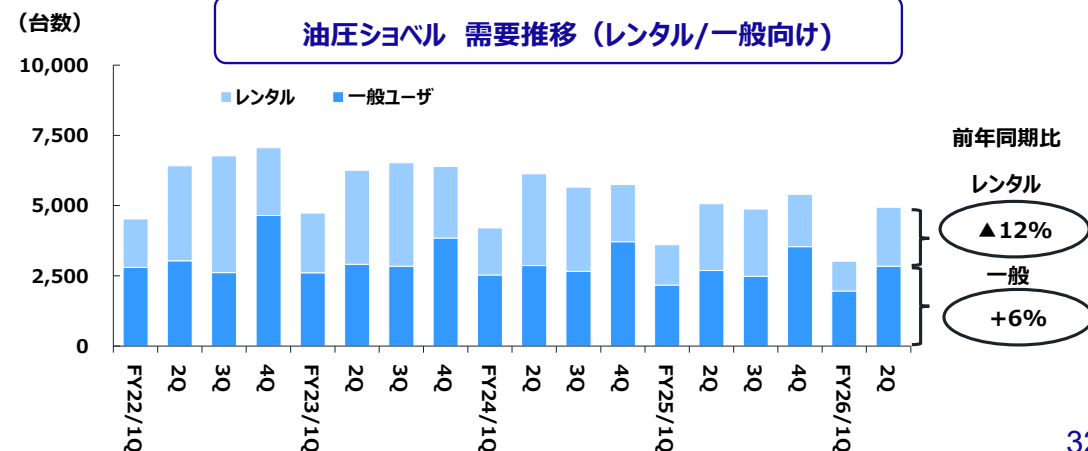
主要7建機 年度別需要推移と建設投資



主要7建機 四半期別需要推移

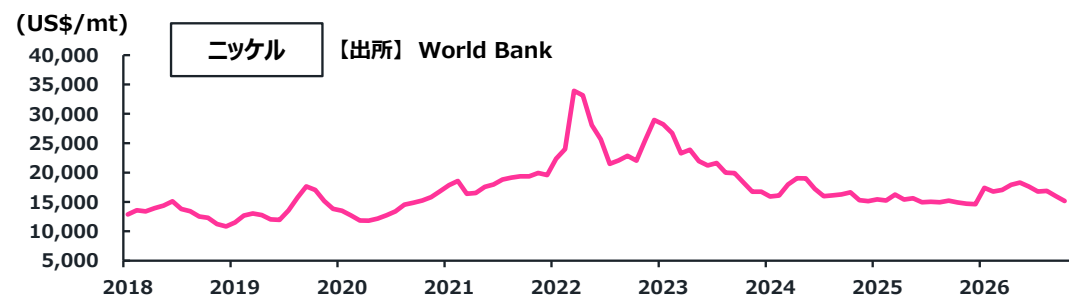
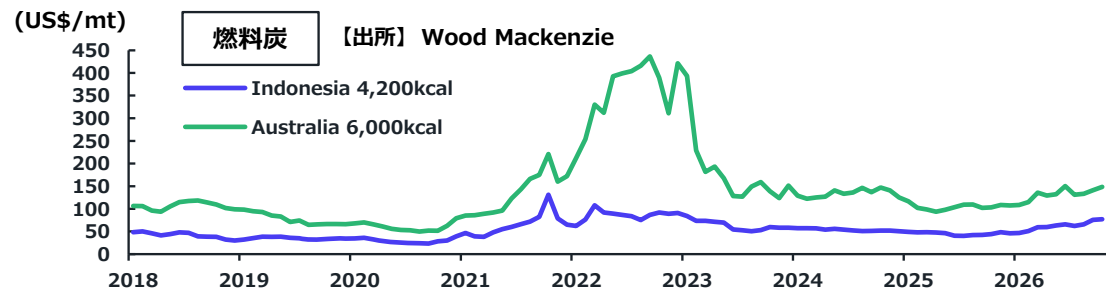
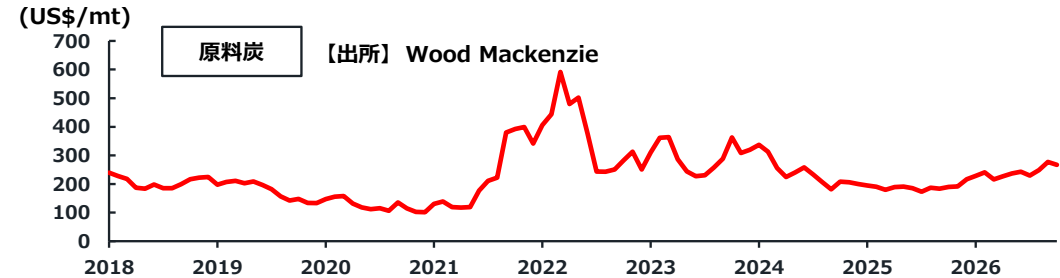
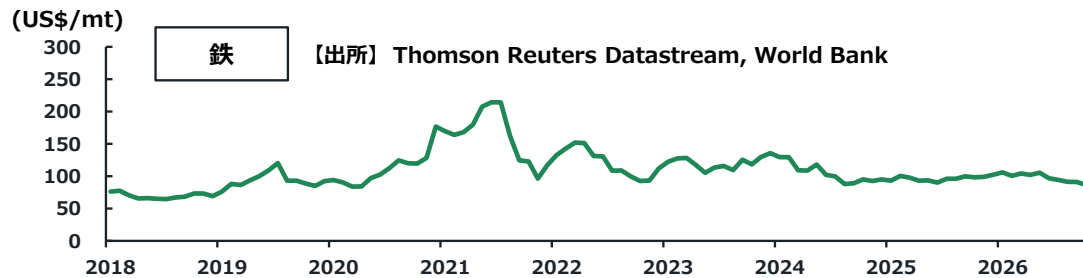
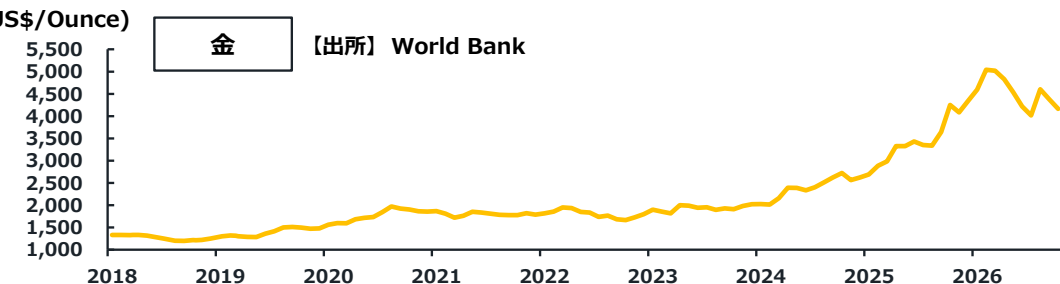
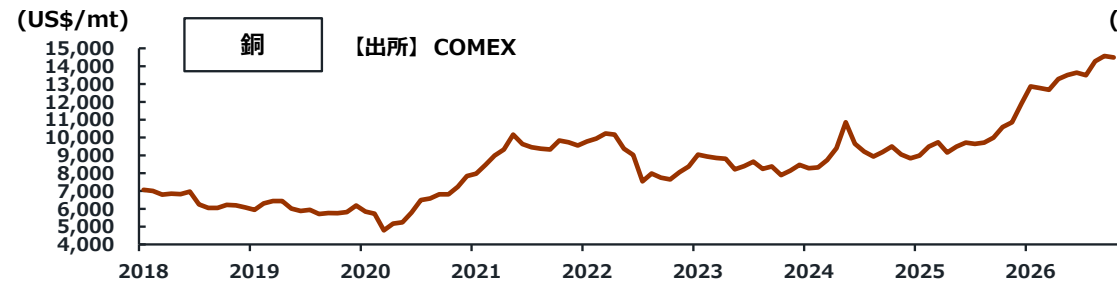


油圧ショベル 需要推移（レンタル/一般向け）



＜建設機械・車両＞ 主要鉱物の価格推移と見通し

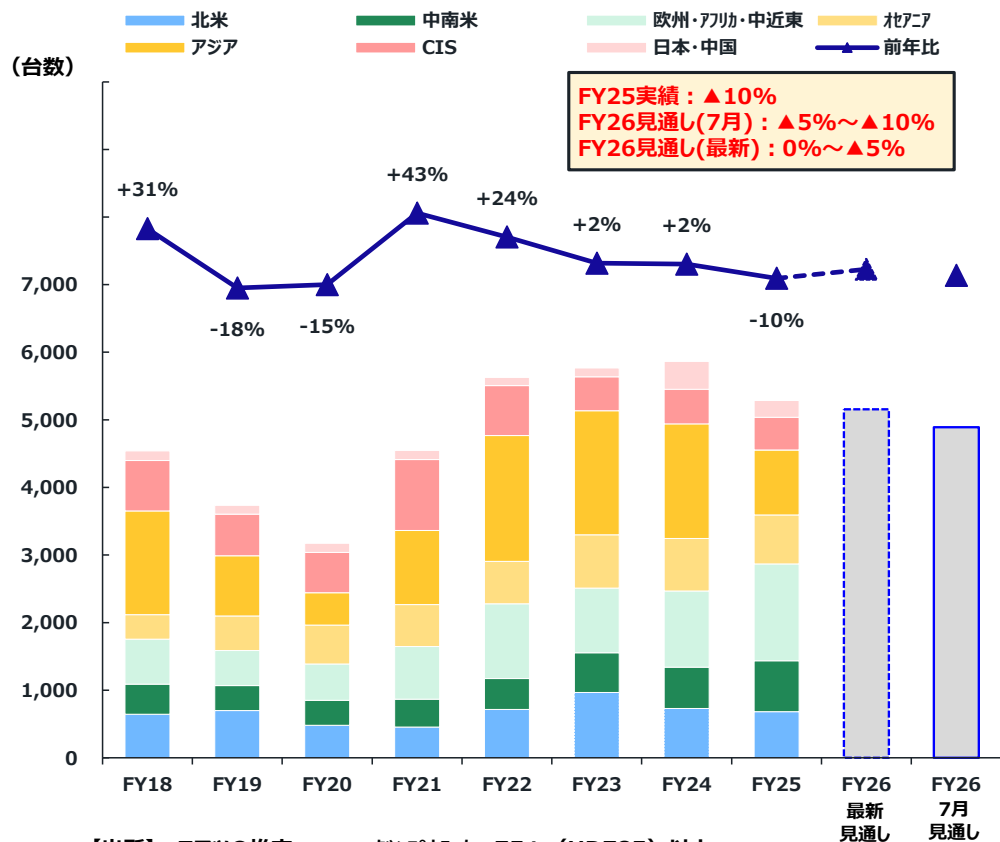
- ・銅は、堅調な需要に支えられ高値を維持。金は、一時的な調整があるものの長期的に見ると高値の水準を維持。
- ・鉄鉱石/原料炭は、安定的な需要が見込まれ、価格も安定して推移。
- ・燃料炭は、低品位炭、高品位炭ともに中東情勢による原油価格の高騰に伴い足元では上昇傾向。



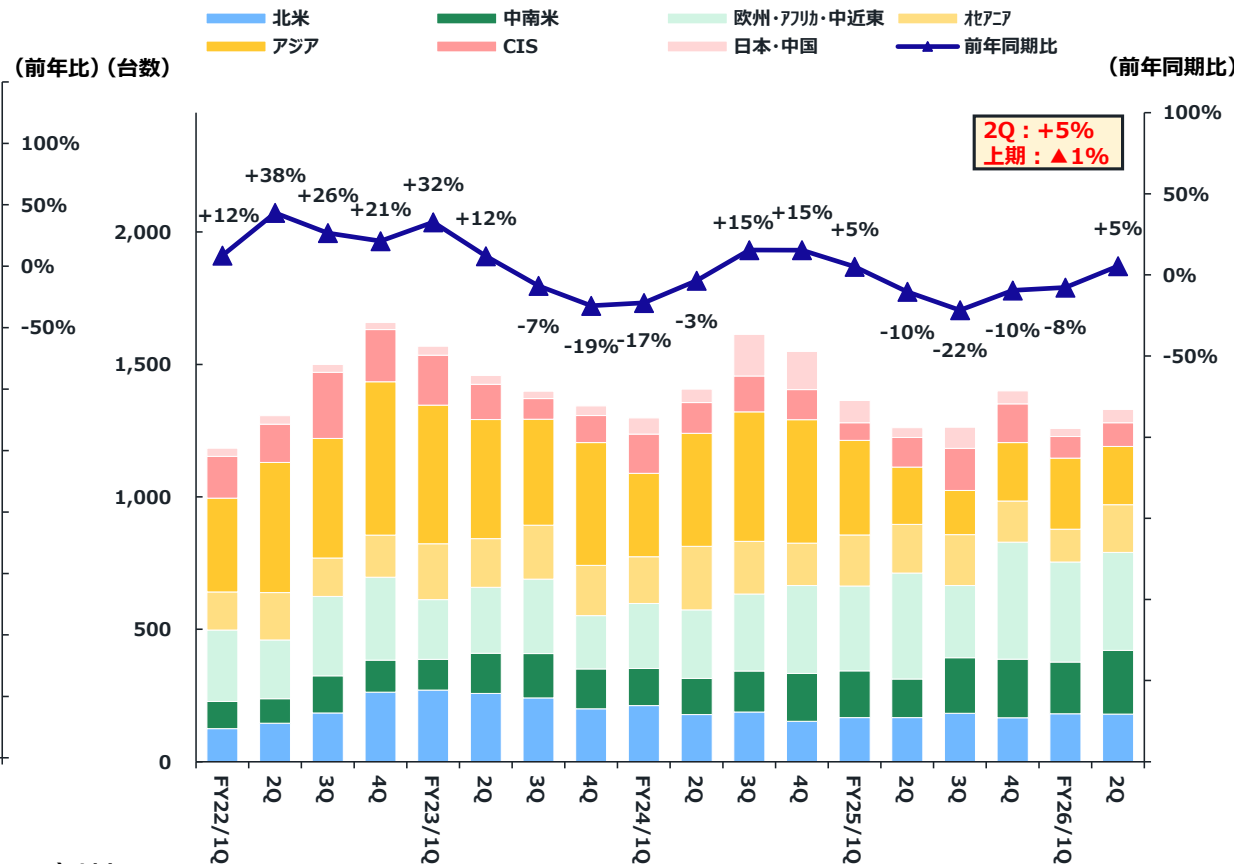
＜建設機械・車両＞ 鉱山機械の需要推移と見通し

- ・2026年度第2四半期の需要は、前年同期比+5%の増加。中南米の銅鉱山向け、アフリカ・北米の金鉱山向けが堅調。
- ・2026年度の需要は、前年比0%～▲5%の見通し（7月見通しより変更）。

鉱山機械 年度別需要推移



鉱山機械 四半期別需要推移



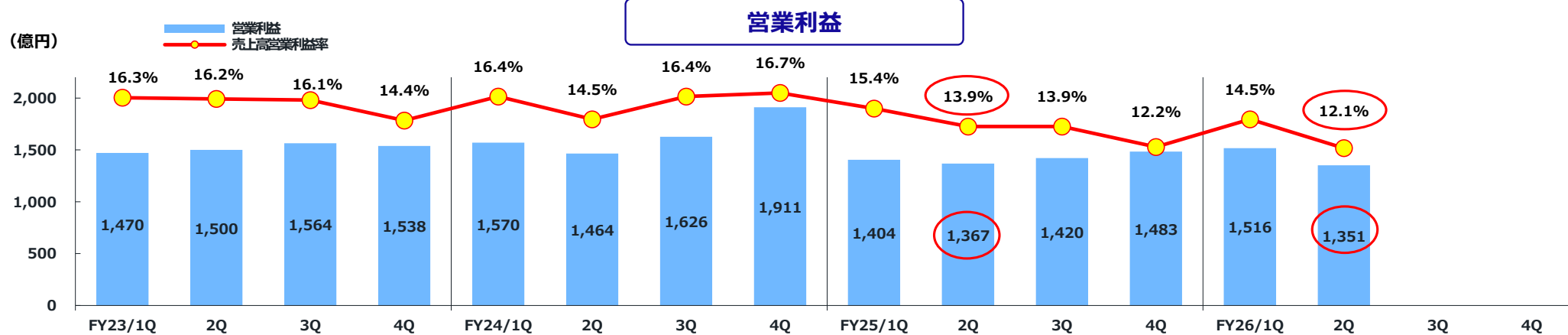
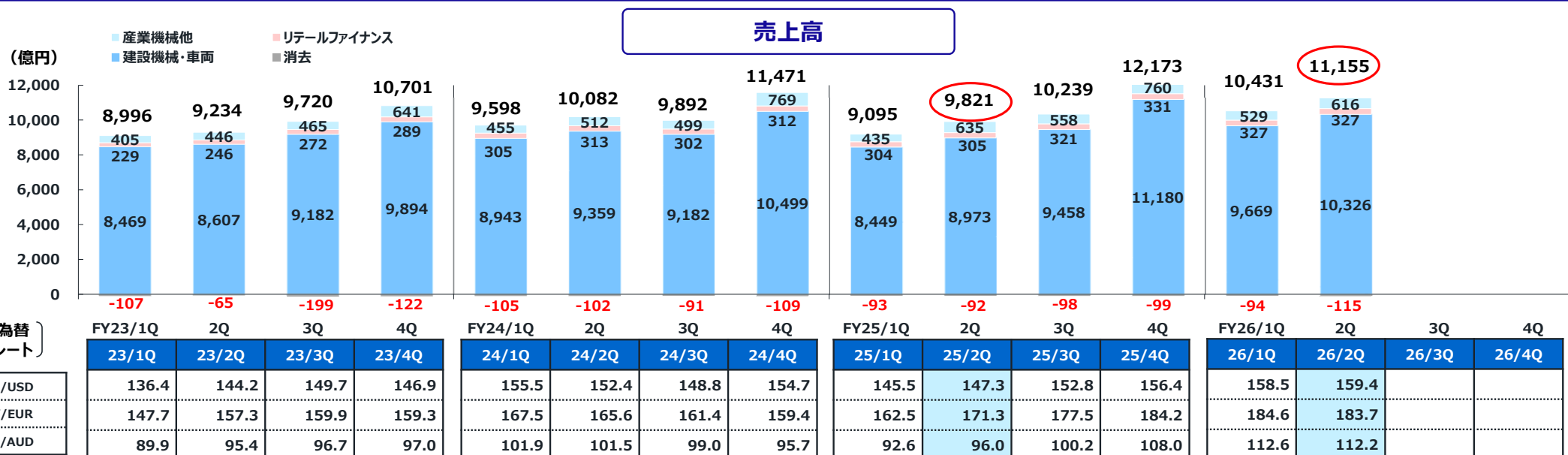
【出所】 コマツの推定

KOMATSU

- ・ダンプトラック：75 t（HD785）以上
- ・エクスカベーター：200 t（PC2000）以上
- ・モーターレーダー：280HP（GD825）以上
- ・ブルドーザー：525HP（D375）以上
- ・ホイールローダー：810HP（WA800）以上

参考資料

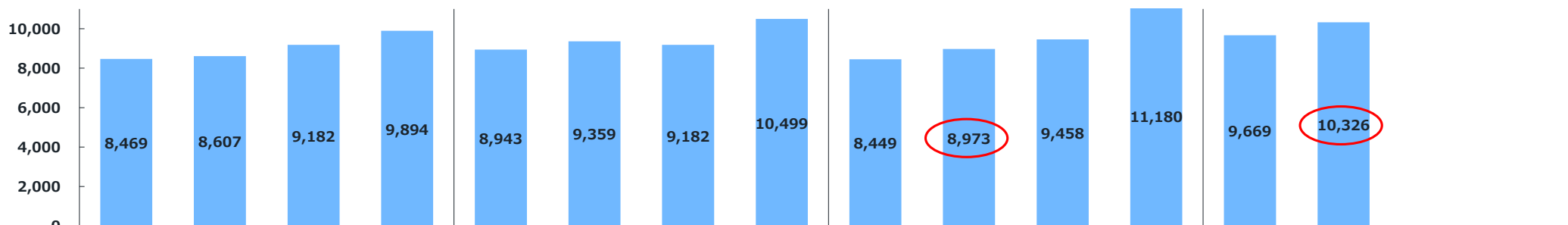
【参考資料】四半期毎の売上高と営業利益の推移



【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

売上高

(億円)

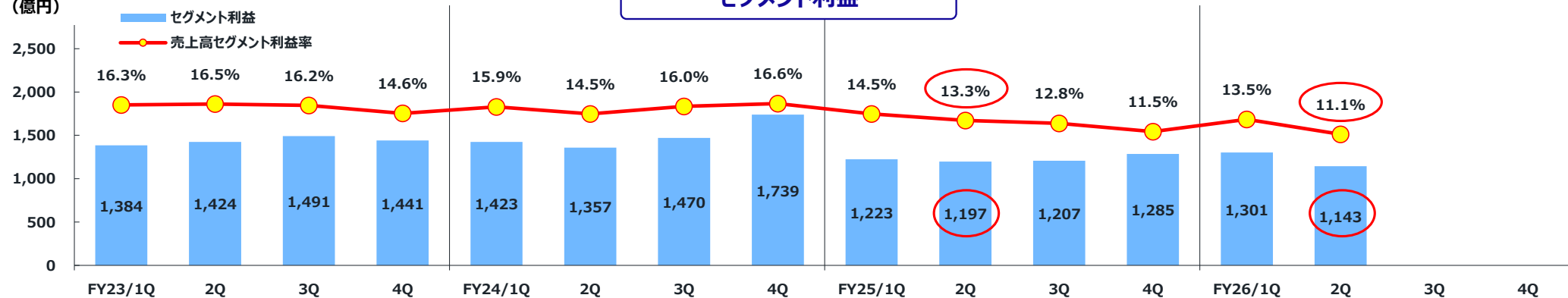


為替
レート

	FY23/1Q				FY24/1Q				FY25/1Q				FY26/1Q			
	23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/4Q	24/1Q	24/2Q	24/3Q	24/4Q	25/1Q	25/2Q	25/3Q	25/4Q	26/1Q	26/2Q	26/3Q	26/4Q
¥/USD	136.4	144.2	149.7	146.9	155.5	152.4	148.8	154.7	145.5	147.3	152.8	156.4	158.5	159.4		
¥/EUR	147.7	157.3	159.9	159.3	167.5	165.6	161.4	159.4	162.5	171.3	177.5	184.2	184.6	183.7		
¥/AUD	89.9	95.4	96.7	97.0	101.9	101.5	99.0	95.7	92.6	96.0	100.2	108.0	112.6	112.2		

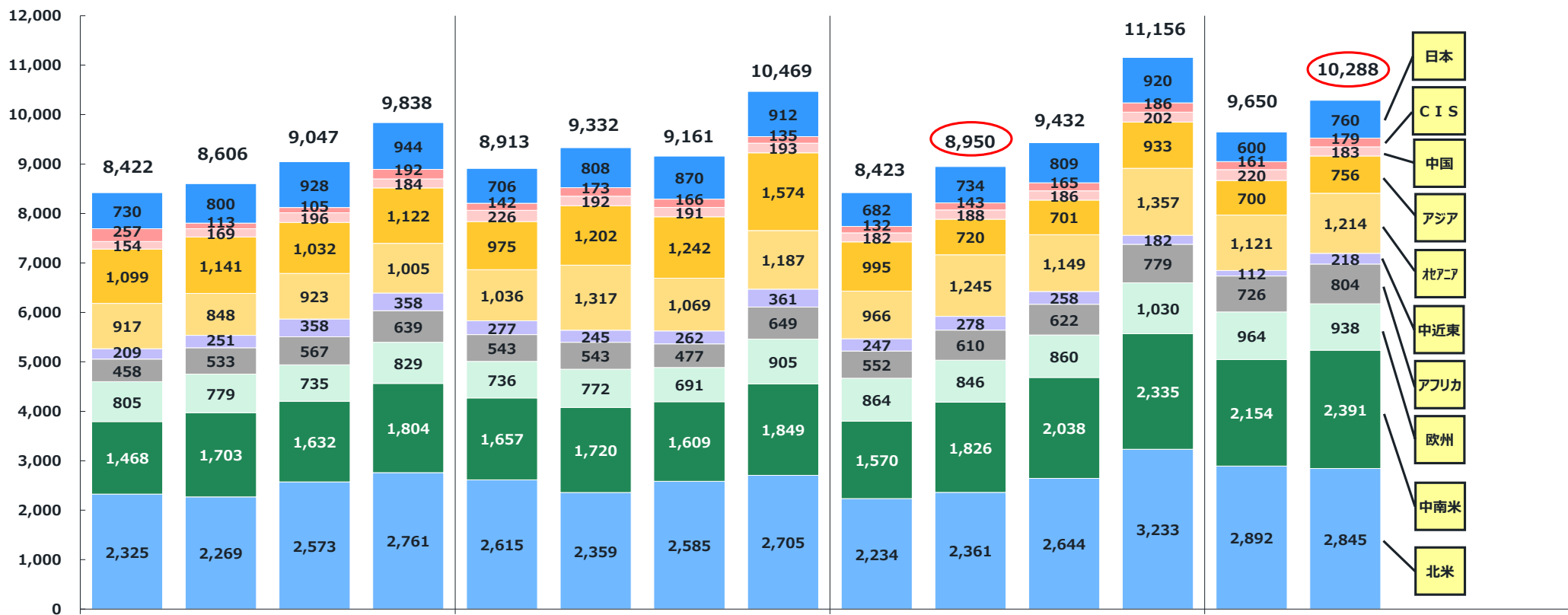
セグメント利益

(億円)



【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）

（億円）

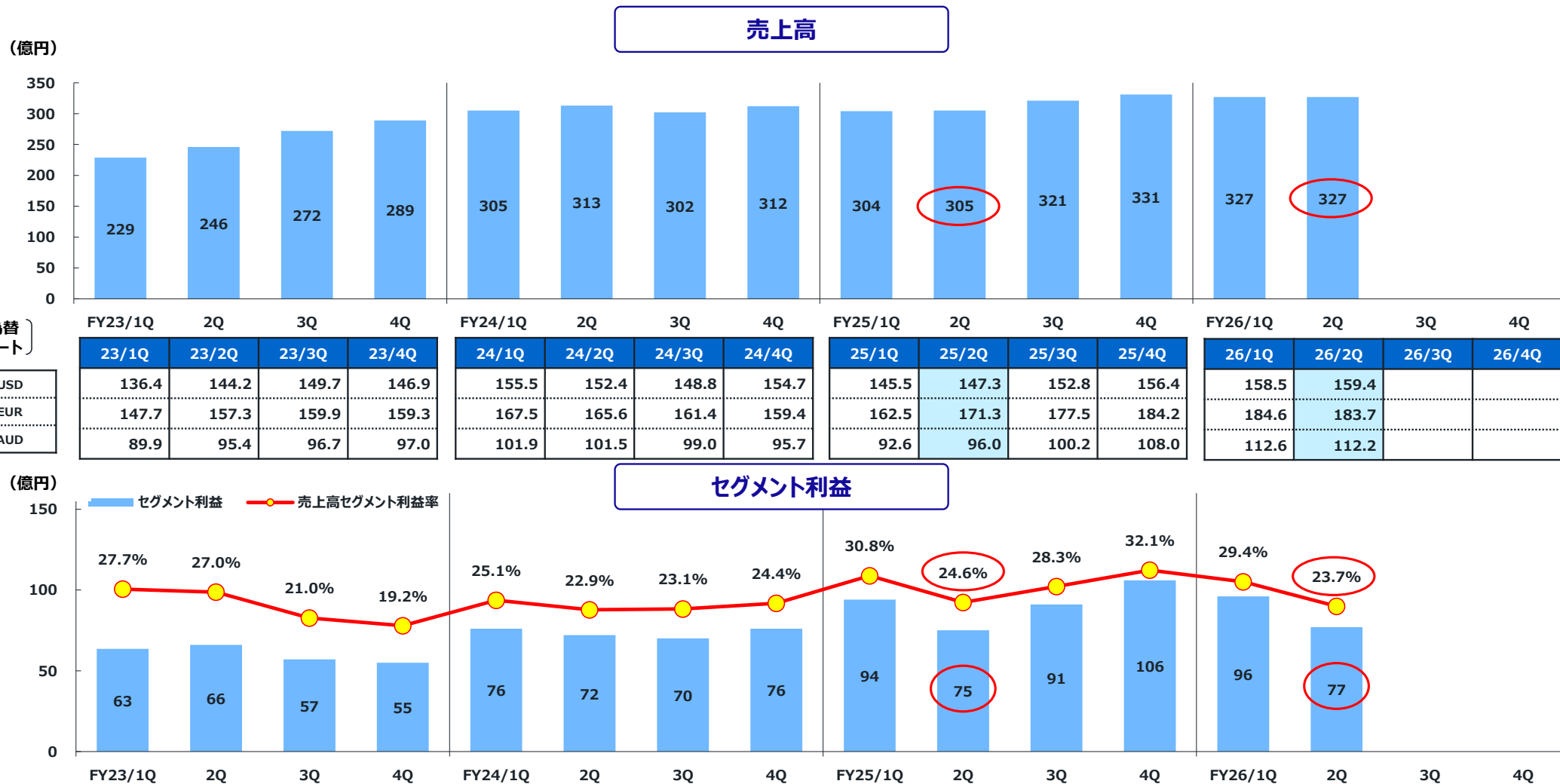


為替
レート

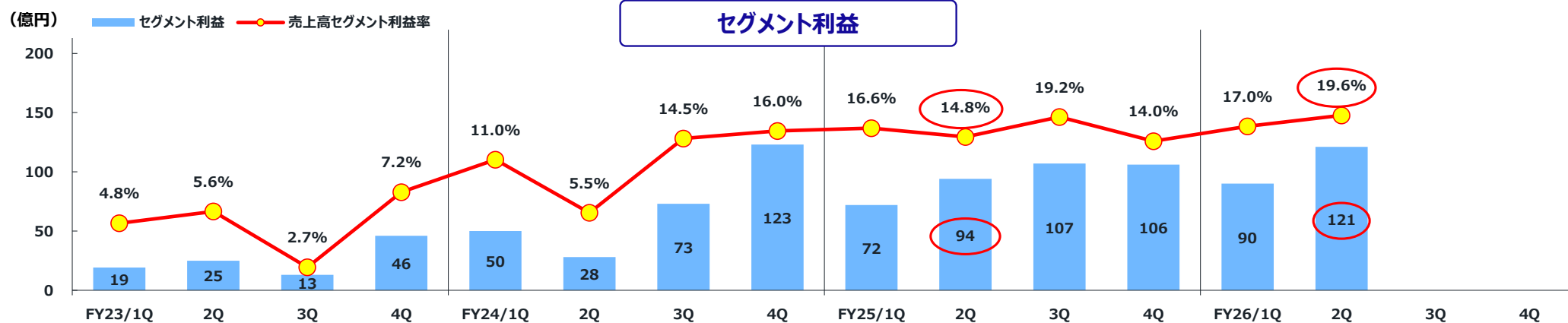
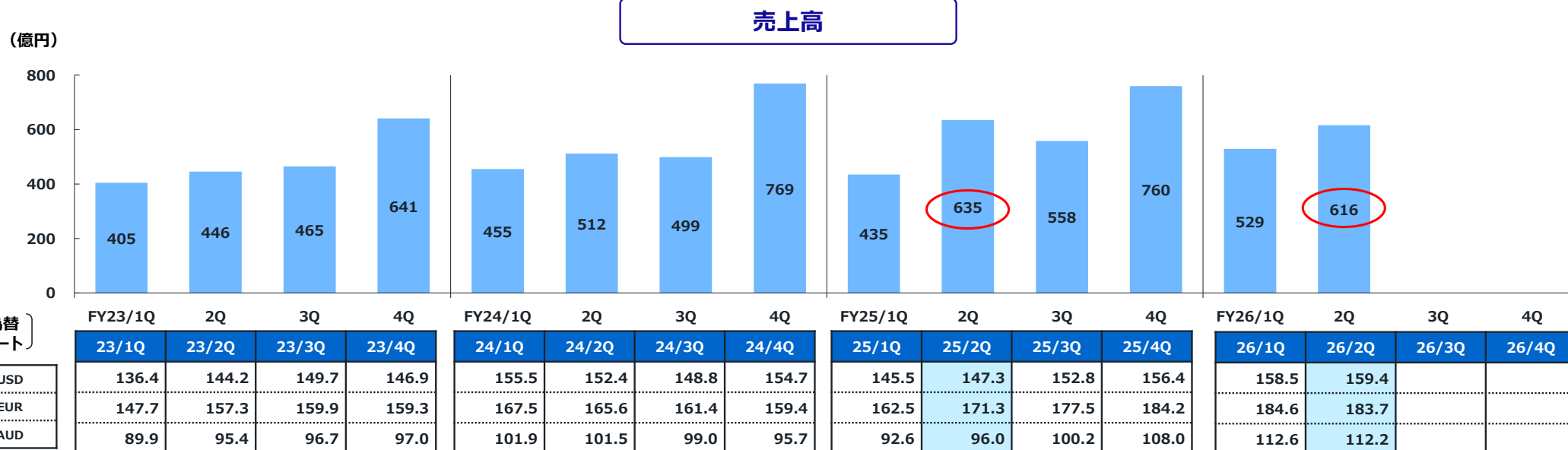
¥/USD	136.4	144.2	149.7	146.9
¥/EUR	147.7	157.3	159.9	159.3
¥/AUD	89.9	95.4	96.7	97.0

FY23/1Q	2Q	3Q	4Q	FY24/1Q	2Q	3Q	4Q	FY25/1Q	2Q	3Q	4Q	FY26/1Q	2Q	3Q	4Q
23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/4Q	24/1Q	24/2Q	24/3Q	24/4Q	25/1Q	25/2Q	25/3Q	25/4Q	26/1Q	26/2Q	26/3Q	26/4Q
136.4	144.2	149.7	146.9	155.5	152.4	148.8	154.7	145.5	147.3	152.8	156.4	158.5	159.4		
147.7	157.3	159.9	159.3	167.5	165.6	161.4	159.4	162.5	171.3	177.5	184.2	184.6	183.7		
89.9	95.4	96.7	97.0	101.9	101.5	99.0	95.7	92.6	96.0	100.2	108.0	112.6	112.2		

【参考資料】＜リテールファイナンス＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

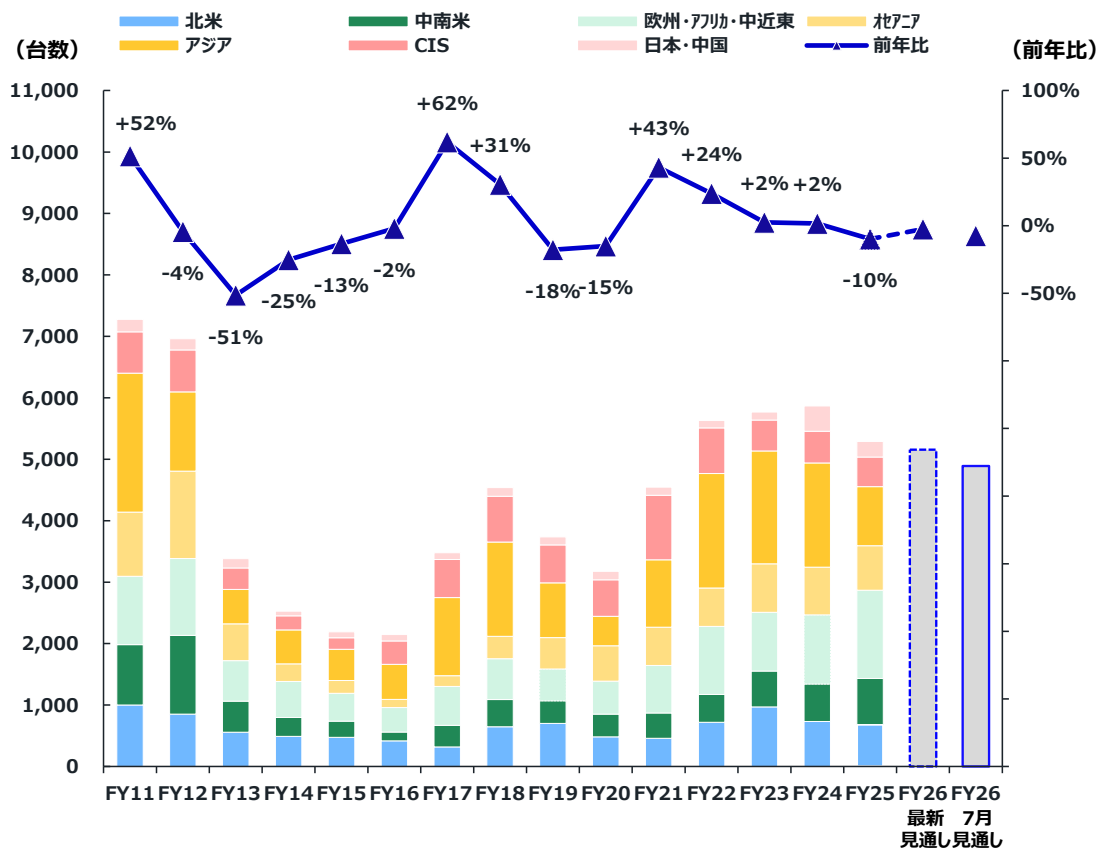


【参考資料】＜産業機械他＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

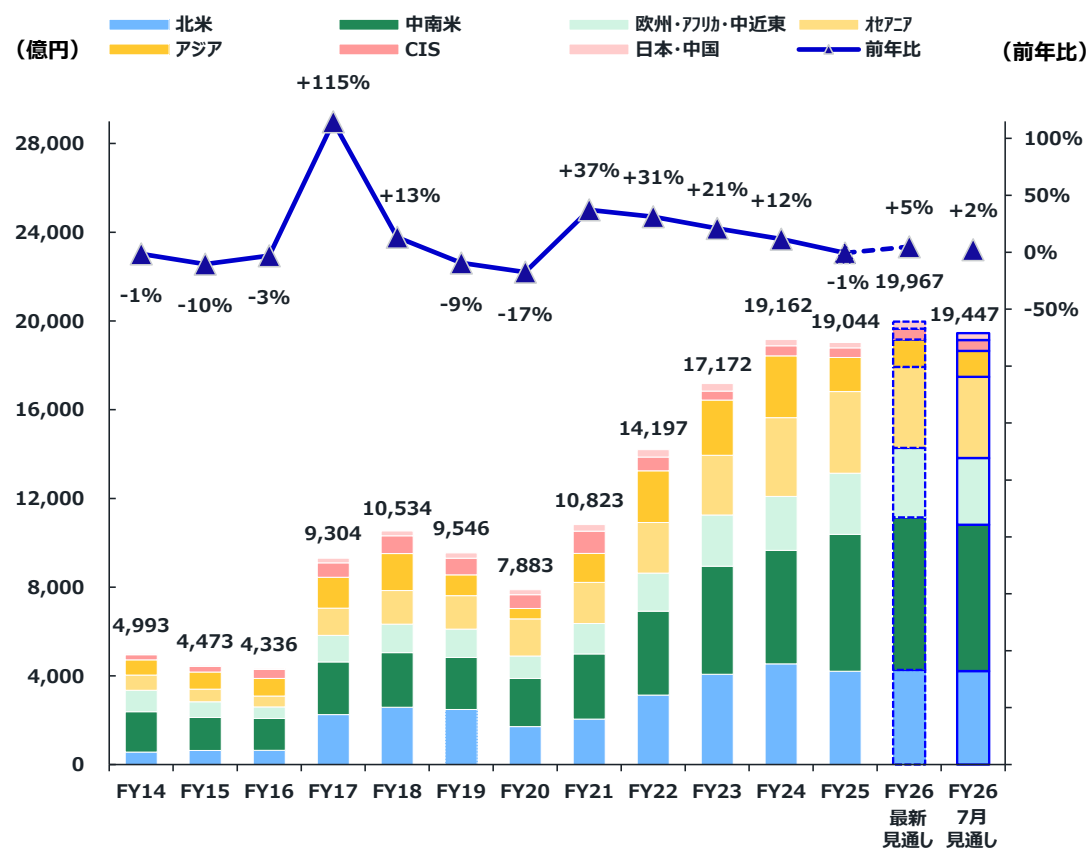


【参考資料】＜建設機械・車両＞ 鉱山機械の需要・売上高の推移と見通し

鉱山機械 年度別需要推移



鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



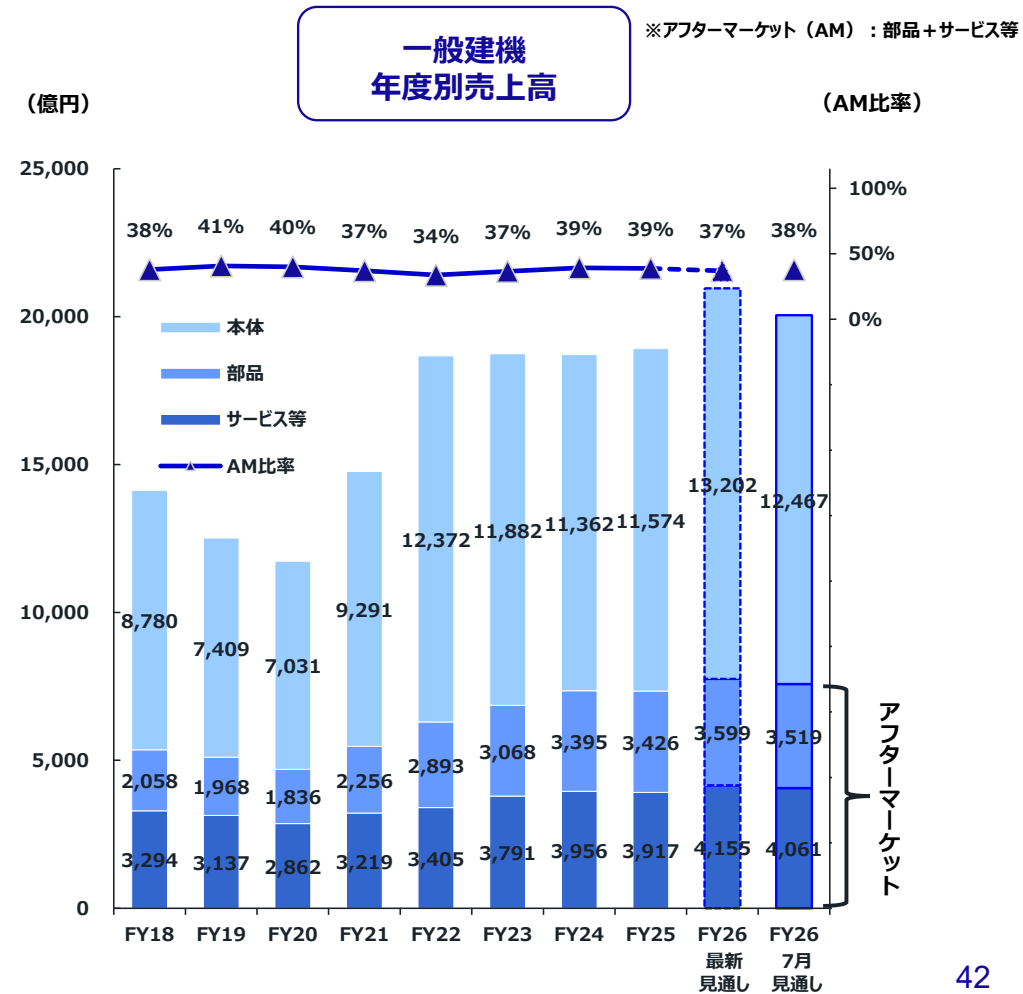
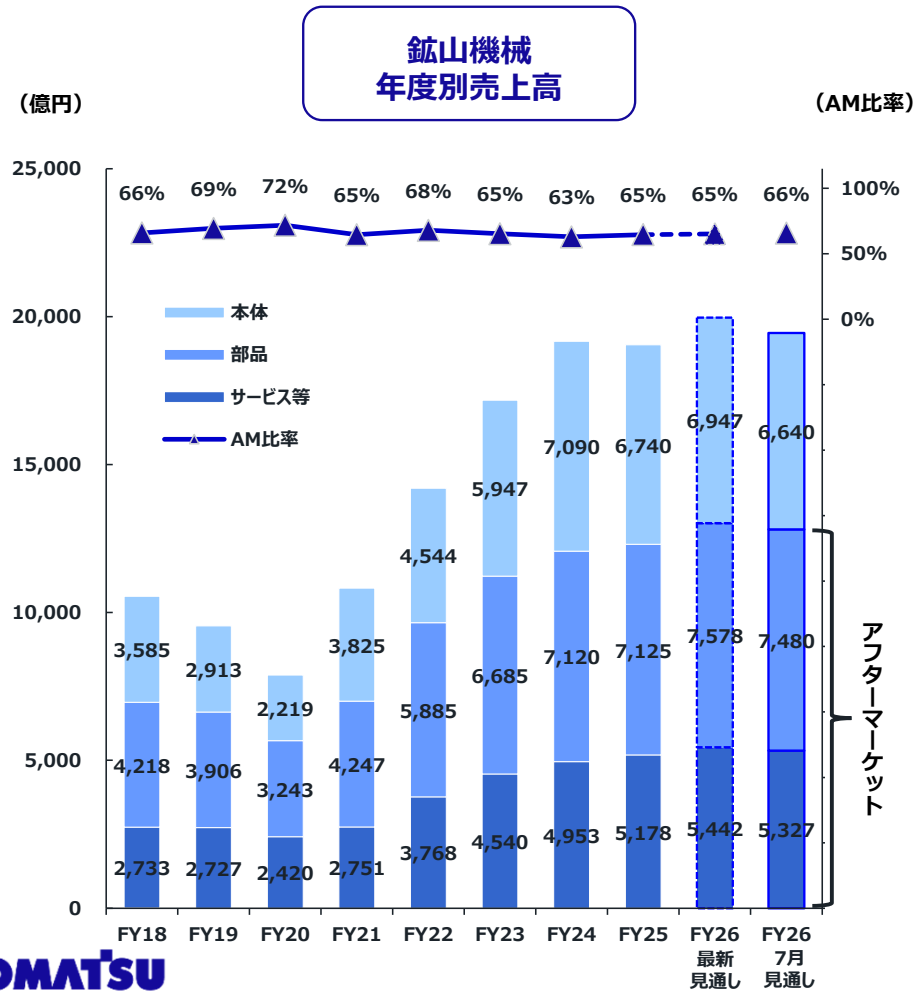
【出所】 コマツの推定

・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上
・エクスカベーター：200 t (PC2000) 以上
・モーターレーダー：280HP (GD825) 以上

・フルトラクター：525HP (D375) 以上
・ホイールローダー：810HP (WA800) 以上

【参考資料】

＜建設機械・車両＞（鉱山機械および一般建機）本体・部品・サービス等の売上高（外部顧客向け）の見通し

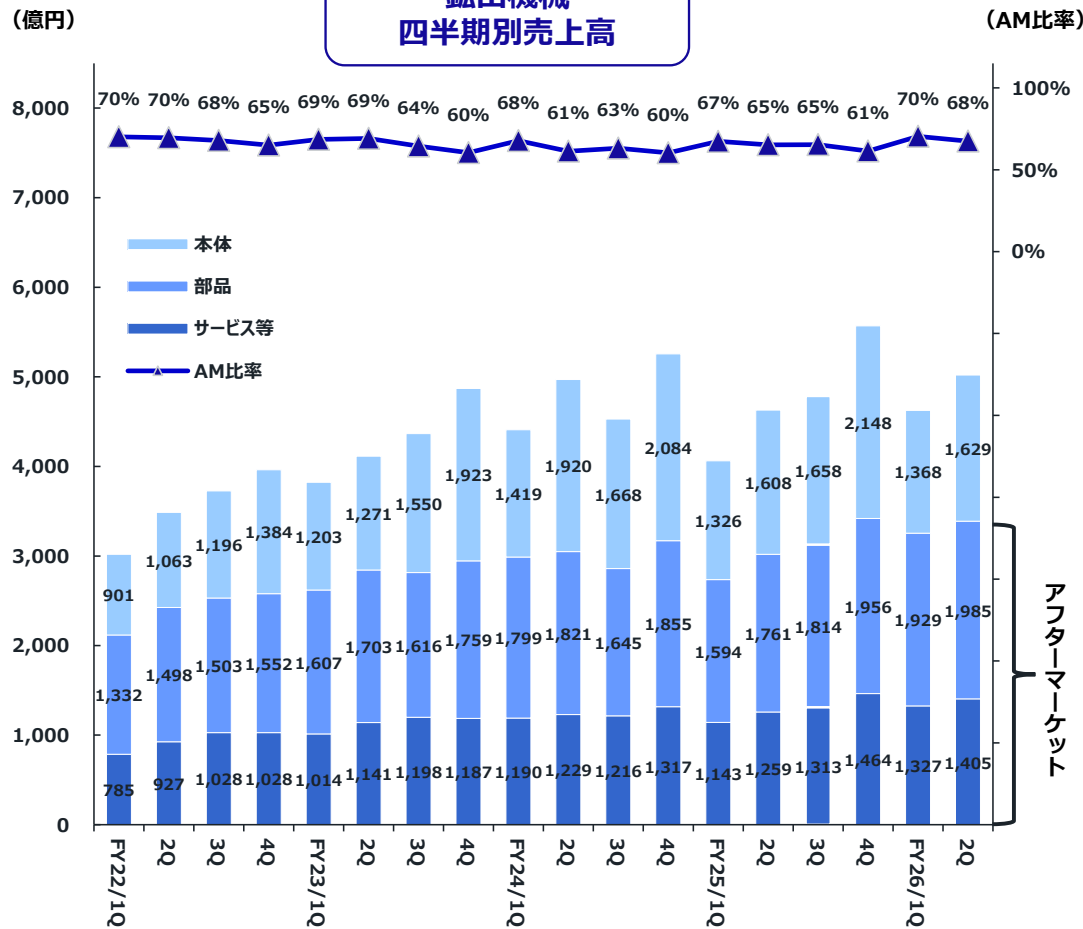


【参考資料】

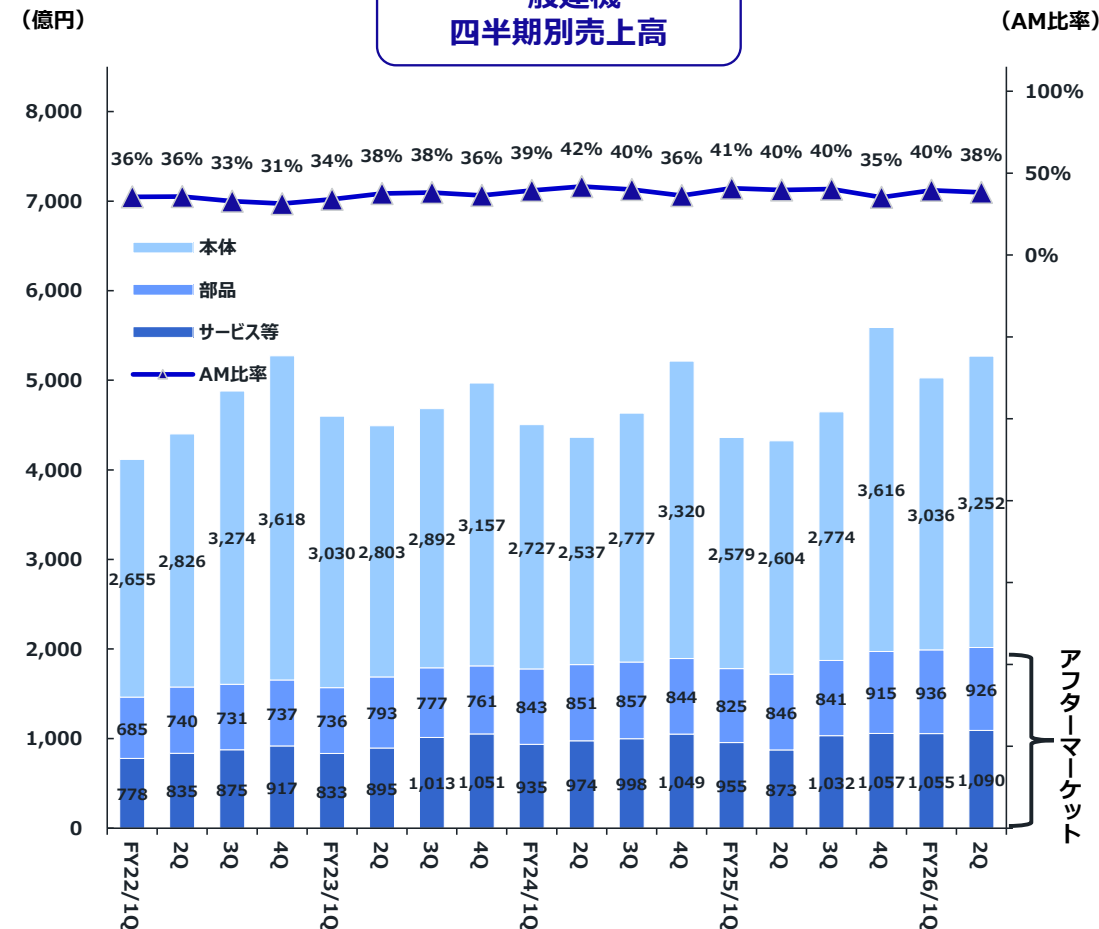
＜建設機械・車両＞（鉱山機械および一般建機）本体・部品・サービス等の売上高（外部顧客向け）の見通し

※アフターマーケット（AM）：部品+サービス等

鉱山機械
四半期別売上高

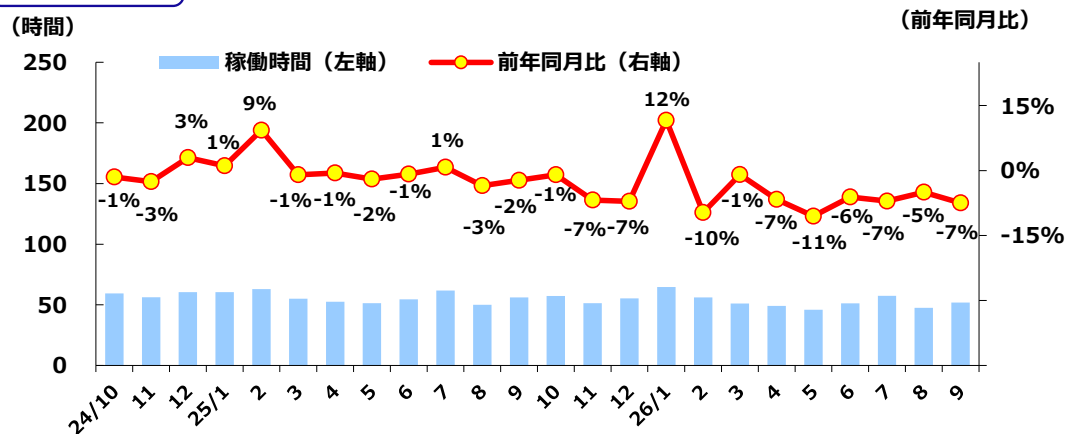


一般建機
四半期別売上高

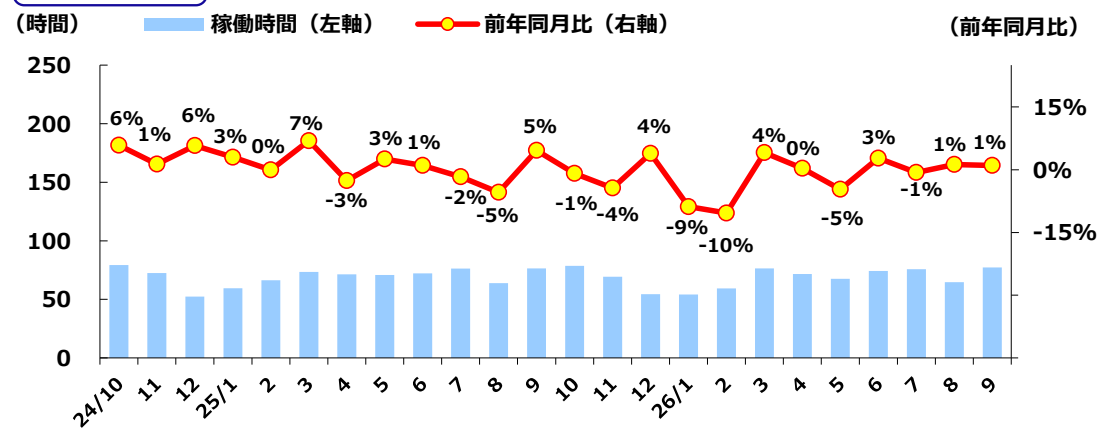


【参考資料】Komtrax 月平均稼働時間推移

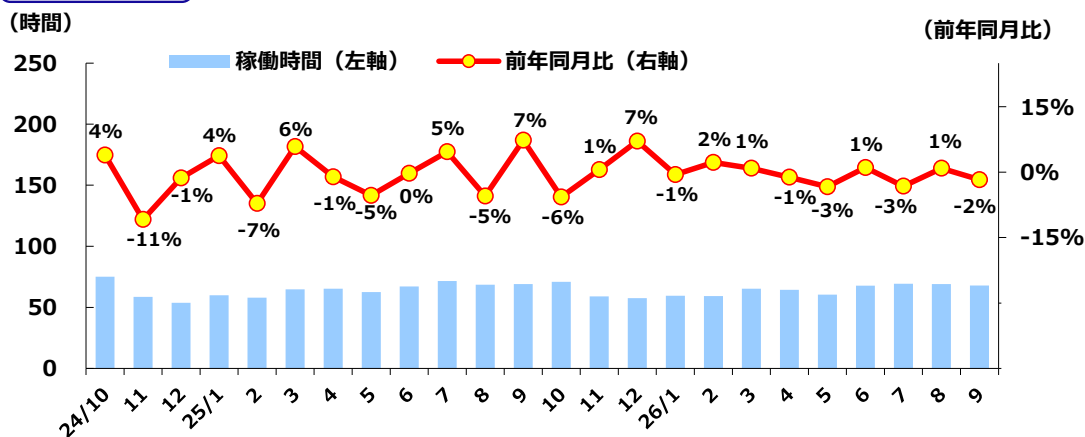
日本



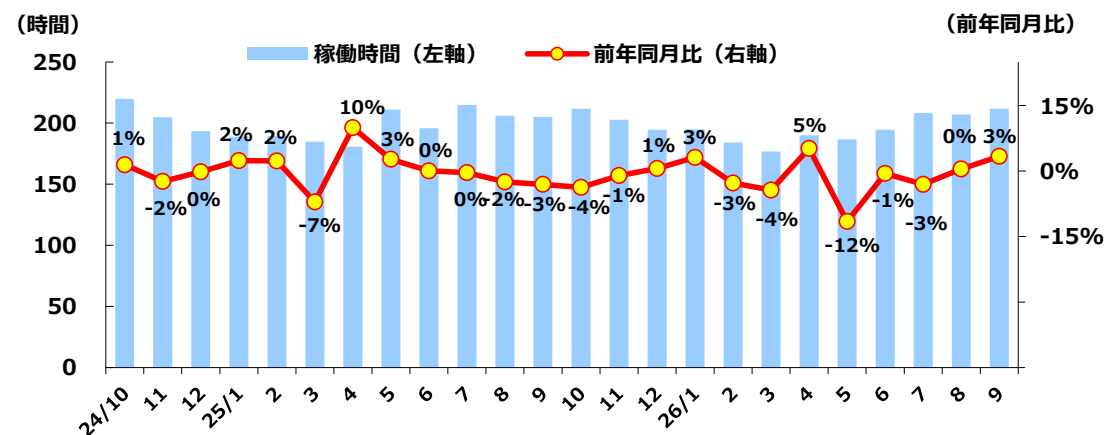
欧州



北米



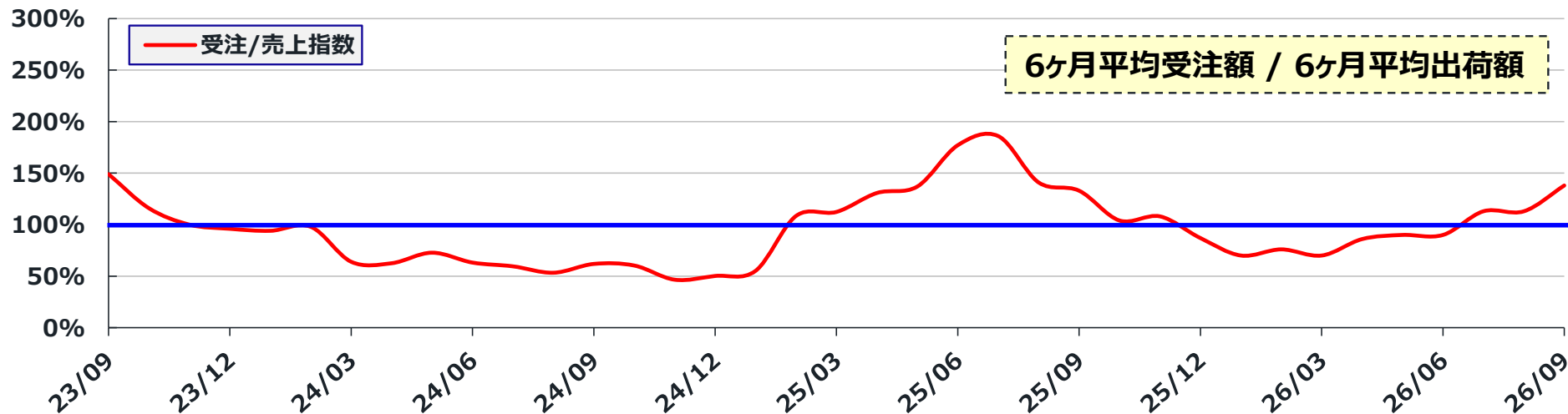
インドネシア



【参考資料】BBLレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕 鉱山機械（本体）

コマツアメリカ (マイニング)

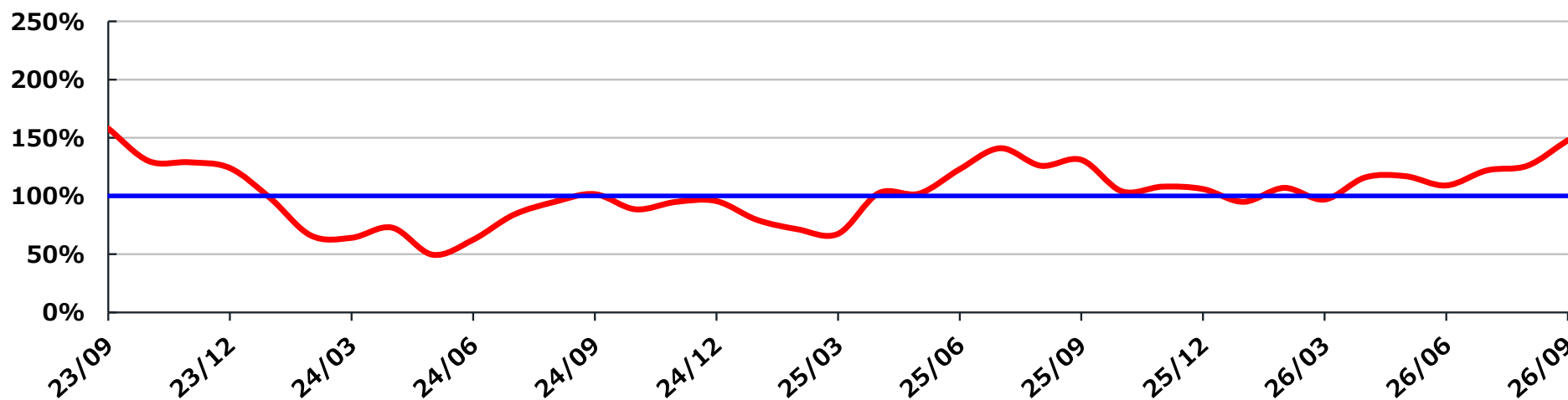
730E, 830E, 860E
930E, 960E, 980E



KMC (マイニング)

<露天掘り>
ロープショベル
ブラストホールドリル
ドラグライン他

<坑内掘り>
コンティニュースマイナ
シアラー
ロードホールダンブ
ジャンボドリル他

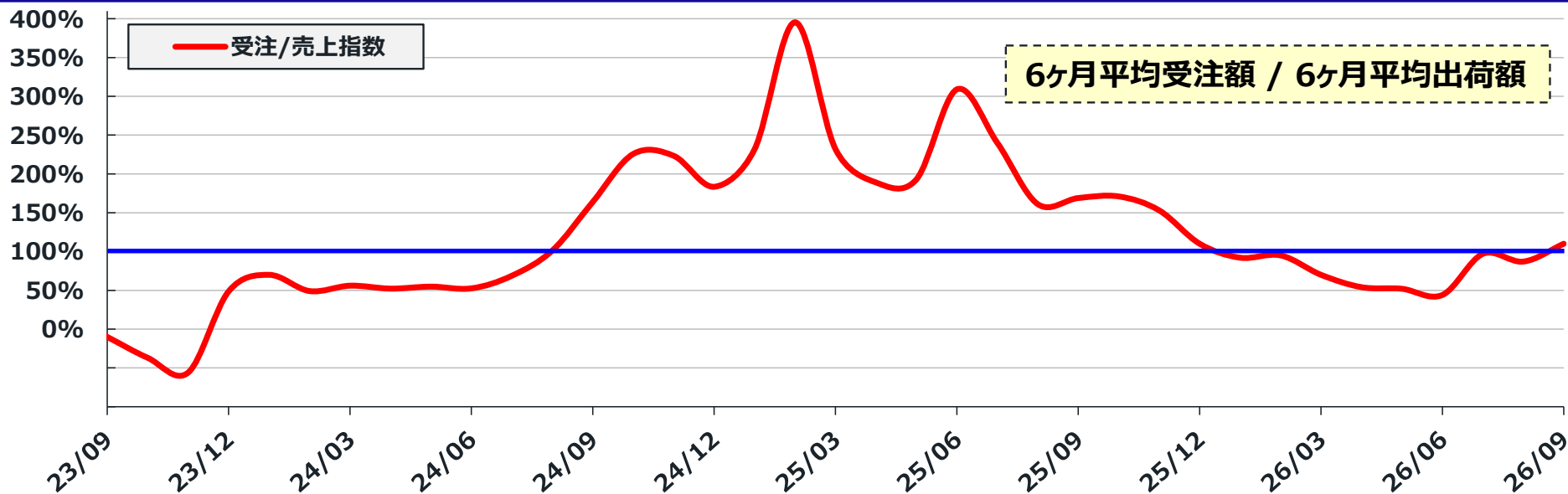


KOMATSU

【参考資料】BBレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕 鉱山機械（本体）

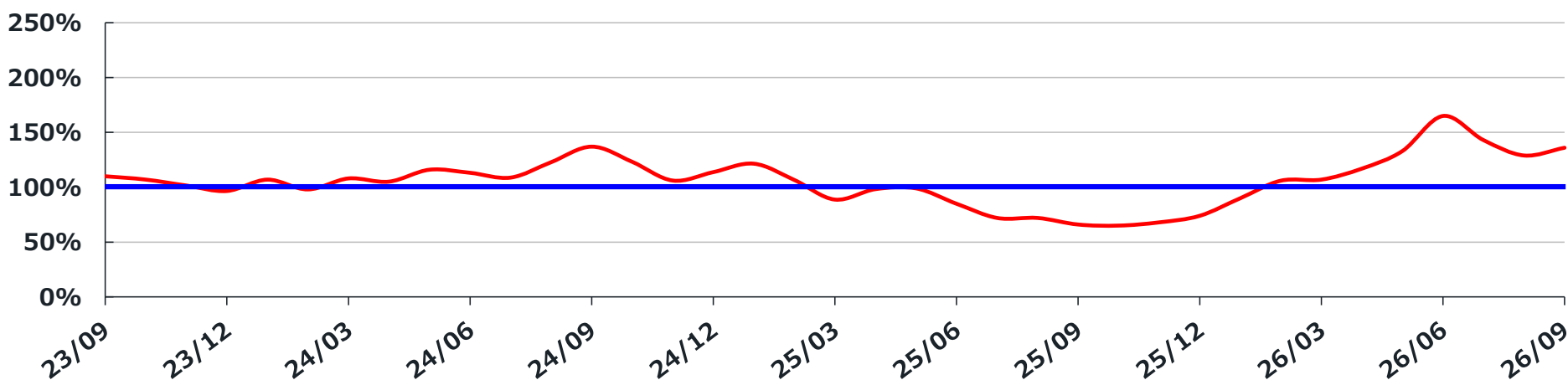
コマツドイツ (マイニング)

PC3000, PC4000
PC5500, PC7000
PC8000, PC9000



コマツ単独 (マイニング)

HD785, HD1500
PC2000, PC3400
WA800 up
D375A up
GD825A up



KOMATSU

－ フィジカルAIとスマートコンストラクション®との連携により自律施工を加速 －
ブルドーザー・油圧ショベル向け自律運転で 米国AIM Intelligent Machinesと戦略的パートナーシップを締結

- ・ コマツとその子会社である株式会社EARTHBRAINは、ブルドーザー・油圧ショベル向け自律運転技術を開発するAIM Intelligent Machines（米国ワシントン州、CEO：Adam Sadilek）と、建設現場における自律施工ソリューションの実現に向け、日本および米国市場を対象とする戦略的パートナーシップを締結しました。

（2026年7月31日リリース）



コマツとアトラシアン・ウィリアムズF1チーム、グローバルパートナーシップ契約を更新し 技術協力を拡大

- コマツは、アトラシアン・ウィリアムズF1チームとのグローバルパートナーシップを延長することで合意しました。
 - コマツのエンジニアが将来のウィリアムズF1マシンに搭載される主要部品の開発を支援するなど、両社の技術面での連携をさらに深めていきます。
- (2026年9月3日リリース)



-インドの開発・生産・調達機能を活用し、東南アジア市場の現場ニーズに対応- 7トン級油圧ショベル「PC75-10M0」を発売

- ・ コマツは、インド現地法人のコマツインディア（KIPL）が開発・生産を担う東南アジア市場向け7トン級油圧ショベル「PC75-10M0」の販売を開始しました。
(2026年9月10日リリース)



-多様化する市場ニーズに応える主力クラス油圧ショベルのラインアップを拡充- 新興国向け油圧ショベル「PC200-11M2」と「PC210-11M2」を発売

- ・ コマツは、油圧ショベル「PC200-11M2」および「PC210-11M2」を発売し、アジアを中心とする新興国市場に順次導入を開始しました。
- ・ 都市土木作業向けに経済性を高めた「CE（Civil Engineering）シリーズ」の第二弾であるPC200-11M2と、幅広い現場に対応する汎用モデルPC210-11M2をラインアップすることで、お客さまにとって最適な機種選定を可能とします。（2026年9月11日リリース）



【PC200-11M2】

【PC210-11M2】

統合報告書「コマツレポート2026」を発行

- コマツは、9月に統合報告書「コマツレポート2026」を発行しました。
- 中期経営計画「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」（2025～2027年度）の初年度を振り返るとともに、自動化・遠隔操作化やAI活用、人的資本、自然資本への取り組みなど、中長期の企業価値向上に向けた施策を紹介しています。

(2026年9月11日リリース)

特集1 自動化・遠隔操作化で切り開く未来



特集2 現場の知見をつなぐAI



[コマツレポート2026へのリンク](#)

参考情報リンク先

株主・投資家情報

<https://www.komatsu.jp/ja/ir>

中期経営計画

https://www.komatsu.jp/ja/newsroom/2025/20250428_2

コマツレポート（統合報告書）

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/annual>

IR-Day

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/results/2025>

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部

TEL: 03-6849-9725

FAX: 03-6849-9795

<https://www.komatsu.jp/ja>